

芦屋港活性化推進委員会

海釣機能専門分科会

検討報告書

平成30年10月

芦屋港活性化推進委員会 海釣機能専門分科会

■ 目 次

1	はじめに	1
2	海釣機能導入の目的	
	(1) 釣り場としての港湾施設の開放	2
	(2) 観光・レジャーとしての海釣のニーズ	2
	(3) 禁止することの悪影響	4
	(4) 期待できる効果	4
3	芦屋港における海釣の現状と課題	
	(1) 現状	
	① 釣り客の現状	5
	② 漁協における海釣りに対する現状	7
	③ 観光・レジャーとしてのポテンシャル	7
	④ 芦屋港の現状	10
	(2) 課題	
	① 釣り客のマナー	11
	② 漁協とのエリア分け	11
	③ 安全対策の必要性	11
4	海釣機能導入のあり方	
	(1) ステップ1	
	① 利用範囲	12
	② ターゲット層	14
	③ 整備内容	14
	④ 整備スケジュール	16
	⑤ 維持管理	16
	⑥ 利用ルール	16
	⑦ 付加価値創出	17
	⑧ 利用料金・利用時間	18
	⑨ 管理運営方法	19
	⑩ 漁協エリアとのすみわけ、動線	19
	⑪ 概算事業費	20
	⑫ 集客見込みと経済効果	20
	(2) ステップ2	
	① 利用範囲	21
	② 整備内容	23
	③ 整備スケジュール	24
	④ 維持管理	24
5	今後の検討課題	25
	資料編	26

1 はじめに

芦屋港活性化推進委員会では、芦屋港の活性化に寄与する港湾機能の一つであり、段階的整備の方針を踏まえ早期に着手できる機能として、海釣り機能の導入を検討するために当専門分科会を、芦屋港活性化推進委員会設置条例（平成 29 年条例第 18 号）第 8 条第 1 項の規程に基づき設置したものです。

港湾における海釣りは、国土交通省により必要な対策を講じることで開放する指針が示されているほか、芦屋町においては、ファミリーフィッシング大会（芦屋町商工会青年部主催）の実績やニーズを踏まえると、芦屋港の活性化に有効と考えられます。このことから、公益財団法人日本釣振興会（以下「日本釣振興会」といいます。）をはじめ、業界や町内釣具店、町内釣り愛好家、遠賀郡漁業協同組合芦屋支所（以下「漁協」といいます。）といった関係者により、港湾が釣り場として機能する可能性や、現在の海釣りに関する課題解決の方策などの視点から検討を行ったものです。

検討にあたっては、平成 30 年 3 月 15 日に国土交通省港湾局が公表した、「既存の港湾施設を活用した日本の釣り文化の振興」をはじめ、「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」を参考に、関係者ヒアリング等による実態調査をもとにしました。

2 海釣機能導入の目的

(1) 釣り場としての港湾施設の開放

国においては地方創生を目的とした観光の取り組みを政府全体で進めている中、国土交通省港湾局では、観光資源としての既存インフラの有効活用や港湾における文化振興の一環として、港湾における釣施設や既存防波堤の利活用を進めているところです。

このような中、平成 29 年 6 月現在、全国の 50 港（66 施設）で釣り施設を供用しており、そのうち 12 港（12 施設）については、防波堤を釣り施設として一般開放し、年間を通じて約 36,000 人の利用者があります。この利用者が近隣の飲食店や商店を利用するなど、地元への経済波及効果が大きく、一定の実績が示されています。

このことから、国土交通省港湾局は、日本釣振興会や水産庁と連携を強化し、モデル地区を設けさらに推進しているところで、特に釣り体験教室、放流事業などのイベントをはじめ、防波堤を新たな釣り施設として一般開放するための検討会が設置されるなど、全国的な動きとして広がっているところです。

芦屋港においてもイベント活用で利用されており、供用施設のひとつに数えられています。が、今後の一般開放についても期待されているところです。

(2) 観光・レジャーとしての海釣のニーズ

公益財団法人日本生産性本部がまとめた「レジャー白書 2017」によると、観光・レジャーとしての推定釣り人口は、約 690 万人とされ、観光・レジャー全体における、道具や器具を使う主なレジャーの分野では最も多い約 25%を占めており、ニーズが高いレジャーといえます。また、親からみて子どもに参加して欲しいレジャーとして「釣り」は、比較的高い傾向にあり、親の影響による子どもの参加傾向では非常に高い参加率にあることから、親子での「釣り」のニーズは高い傾向にあるといえます。

また、芦屋町においては、平成 26 年度から芦屋港にてファミリーフィッシング in 芦屋という海釣りイベント（芦屋町商工会青年部主催）を、平成 27 年度からはレジャープールアクアシアンの流水プールを利用したニジマス釣り、ファミリーフィッシング in アクアシアンと併せて年 2 回実施しており、毎回定員を超える申し込みがある非常に人気の高いイベントとなっています。参加者のアンケート調査などからも、非常に高いニーズがあるばかりか、他地域の同様イベントに比べて際立った参加傾向にあることが、協賛している日本釣振興会の調査からも明らかになっています。

このようなことから、観光・レジャーとして、海釣りのニーズは高く、地域と連携すること、経済的な波及効果も期待できるといえます。

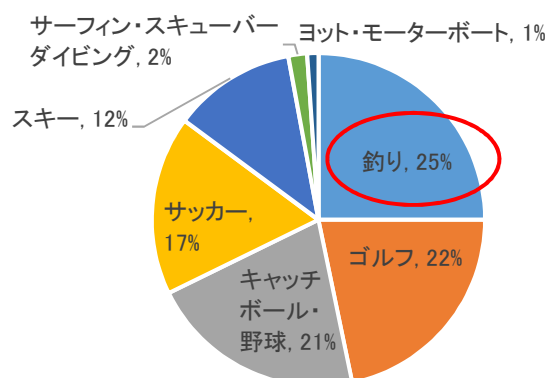
〔参考〕

【レジャー白書 2017】

主なレジャーの参加人口

主なレジャー種目	参加人口	道具使用
ジョギング・マラソン	2,020万人	使わない
釣り	690万人	使う
ゴルフ(練習場)	600万人	使う
キャッチボール・野球	580万人	使う
サッカー	480万人	使う
スキー	330万人	使う
サーフィン・スキューバーダイビング	50万人	使う
ヨット・モーターボート	30万人	使う

道具を使うレジャーの割合



【ファミリーフィッシング in 芦屋（芦屋港）過去の参加者数】

開催年月	当日参加者数（申込数）	イベント内容
平成26年 9月 7日	50組 198人	親子釣り大会、稚魚放流、捌き方教室
平成27年 9月 6日	(80組 245人)	※荒天のため中止
平成28年10月18日	23組 66人	親子釣り教室、稚魚放流
平成28年 9月 4日	(67組 101人)	※台風のため中止
平成28年 9月25日	37組 56人	親子釣り教室、稚魚放流
平成29年 5月28日	30組 80人	親子釣り教室、稚魚放流
平成30年 6月 3日	72組 103人	親子釣り教室、稚魚放流

【ファミリーフィッシング in アクアシアン（ニジマス釣り）過去の参加者数】

開催年月	イベント参加者数	総来場者数	ニジマス数
平成27年11月15日	510人	1,282人	1,500匹
平成28年11月13日	1,001人	2,065人	3,500匹
平成29年11月12日	1,289人	3,050人	4,500匹
平成30年11月11日	1,295人	3,164人	5,000匹

（３）禁止することの悪影響

これまで、防波堤をはじめ港湾施設内や漁港区域内は、安全確保の観点は当然ですが、港湾事業者や漁業従事者にとっては生計の場であることから、特に釣り客とのトラブルに対しては「釣り禁止」が一般的な対応でした。しかし、良い釣り場を求めるため一部の釣り客が禁止区域内に無断で侵入するなどの問題が発生しています。これは、「禁止」であるために生じる問題でもあり、ルールづくりをしたうえで、あえて開放することが効果的であるという結果が全国的に出てきた新たな対策です。

これは、日本釣振興会の努力によりますが、国土交通省港湾局においてもこの取り組みが問題を解決するための方策として有効であると示しています。

芦屋町においても、これまでの釣り客による様々な問題から、禁止措置をとっていますが、実態としては多くの釣り客が利用しており、あえて開放するための環境整備を行うことが有効と考えられます。

（４）期待できる効果

このように、釣りは観光レジャー面において、ニーズが高いものの、一部の釣り客のマナー違反による漁業従事者とのトラブルや、危険区域への侵入などの課題もあります。

国土交通省港湾局と日本釣振興会が連携し推進するように、一定の安全対策を講じ、ルールを定め釣り場確保（防波堤や港湾の開放）を行うことで、課題解決や観光面における波及効果が期待できると考えられます。

3 芦屋港における海釣の現状と課題

(1) 現状

①釣り客の現状

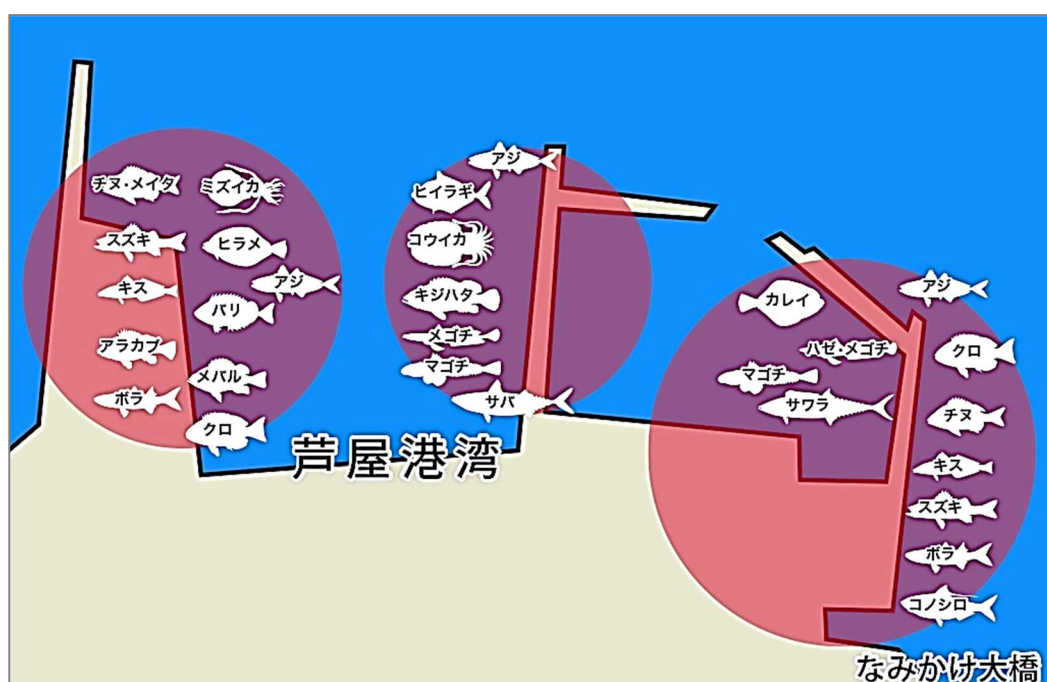
芦屋港においては、冬季を除き一定の釣果があります。また、場所によって釣果が異なるため、芦屋港全体は、釣り客にとって魅力のある場所といえます。特に休日の釣り客は多く、芦屋港内での無断駐車が常態化しています。

また、芦屋港は全域が釣り禁止となっており、安全面での危惧のほか、不法投棄や、漁協が使用しているエリア内への侵入は漁業従事者にとって問題となっています。

〔参考〕 芦屋港平面図 ＊ 福岡県資料より抜粋



〔参考〕 主な釣果 ＊ 町内釣具店、町内釣り愛好家へのヒアリングにより作成



〔参考〕月別釣果（芦屋港湾内）

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
チヌ・メイタ	浮釣り	昼・夜												
スズキ	ルアー	昼・夜												
キス	投げ	昼												
アラカブ	餌・ルアー	昼												
ボラ	浮釣り	昼・夜												
ミズイカ	ルアー	昼・夜												
ヒラメ	ルアー	昼												
アジ	餌・カゴ	昼・夜												
バリ	餌・浮釣り	昼・夜												
メバル	餌・浮釣り・ルアー	昼・夜												
クロ	餌	昼												
ヒイラギ	投げ・餌	昼												
コウイカ	ルアー	昼・夜												
キジハタ	餌・浮釣り	昼・夜												
メゴチ	投げ・餌	昼												
マゴチ	ルアー	昼												
サバ	餌・カゴ	昼												

〔参考〕月別釣果（遠賀川河口側導流堤付近）

			1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
アジ（サバ）	投げ	昼・夜												
クロ	投げ	昼												
チヌ	投げ	昼・夜												
キス	投げ	昼												
スズキ	投げ	昼・夜												
ボラ	投げ	昼												
コノシロ	投げ	昼・夜												
カレイ	投げ	昼												
ハゼ・メゴチ	投げ	昼												
マゴチ	投げ	昼												
サワラ	投げ	昼												

〔参考〕現状写真（無断駐車、不法投棄）



6号野積場



6号野積場



C緑地の住居地区側道路



上屋横港湾出入り口門前



1号野積場フェンス前



1号野積場内

②漁協における海釣りに対する現状

特に漁協が使用しているエリアにおいては、遠賀川河口沿いの導流堤で様々な釣果が期待できることから、釣り客にとって魅力のある場所となっています。しかし、釣り場として開放されている場所ではないため、しっかりとした動線がなく、一部の釣り客が漁協エリア内や漁協事務所の敷地内を通行する行為が後を絶ちません。また、船揚場を無断で使用したり、ボートを無断で保管したり、放置しているケースもあります。ゴミや釣り糸、餌などの不法投棄、釣り糸を電線に絡ませ放置するなど、漁協にとっては、様々な問題を抱えています。

〔参考〕現状写真（船揚場、ゴミの放置）



③観光・レジャーとしてのポテンシャル

一方で、芦屋港においては、前述のとおり芦屋町商工会青年部が主催するファミリーフィッシング in 芦屋は、海のある町としての芦屋町を町内外に発信し、魚釣りを通して魚に興味を持ってもらうことを目的として、日本釣振興会の協力を受け、これまで5年間開催しています。

このイベントの参加者アンケートによると、イベントの魅力は「初心者でも楽しめる」72.2%といった点や、釣果もあり親子で楽しめるものとして満足度も 86.1%と好評価を得ており、特にファミリー層や初心者層にとってはポテンシャルの高さがあるといえます。

また、芦屋海浜公園レジャープールアクアシアンの流水プールを活用したファミリーフィッシング in アクアシアンでは、参加者を子どもだけに限定しているにも関わらず、1,300 組の募集数が数日で定員に達してしまうほど盛況で、この規模の釣りイベントは西日本で見ても最大規模となります。これほどの参加者に対応できる受け入れ体制についても、主催の芦屋町商工会青年部をはじめ日本釣振興会などの関係団体との協力体制がしっかりとしており、芦屋町の釣りのニーズだけでなく、受け入れ体制についても、ポテンシャルの高さが伺えます。

〔参考〕現状写真（ファミリーフィッシング in 芦屋）



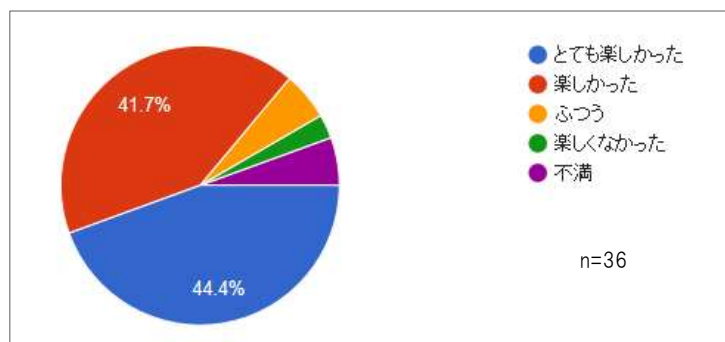
〔参考〕現状写真（ファミリーフィッシング in アクアシアン）



【参考】参加者アンケート結果（ファミリーフィッシング in 芦屋アンケート結果より）

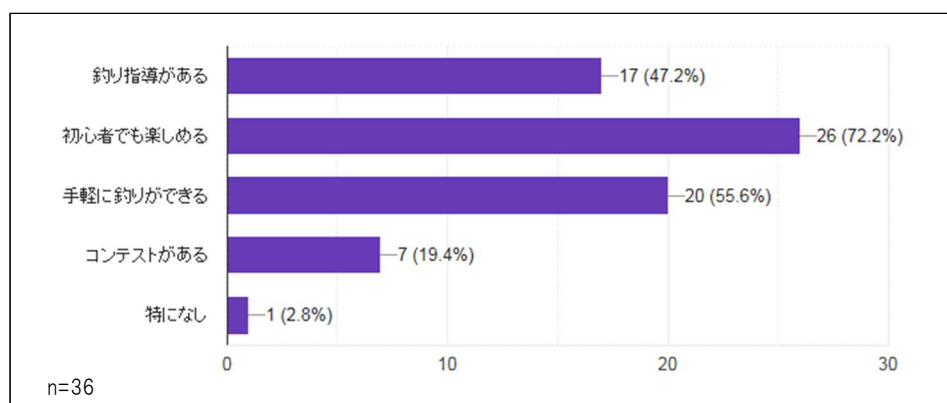
【参加者の満足度】

参加者への満足度に関するアンケート結果では、約 86%が「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答。大会の満足度は高い。



【大会の魅力】

参加者へのイベントの魅力に関するアンケート結果では、「初心者でも楽しめる」とした回答が 72.2%と最も高く、次いで「手軽に釣りができる」が 55.6%と、初心者が手軽に参加できることが大きな魅力となっている。



④芦屋港の現状

芦屋港においては、西側から流入する砂の堆積により、特に西側では水深が非常に浅くなっており、釣果が期待できる場所とはいえません。特に一定の釣果を期待する中級者以上には遠賀川河口側に魅力があります。

しかし、芦屋港の中央部にある東防波堤には160mに渡って、高さ1.1mのアルミ製転落防止柵が設置されており、足場も広くフラットなため、家族連れや初心者には比較的安全な場所といえます。なお、東防波堤についても砂の堆積による影響、堆砂の浚渫後は一時的に魚がいらないなど釣果の変化が生じますが、一定の水深もあるため、釣果も遠賀川河口沿いに比べると限定的ですが、一定の期待ができます。

〔参考〕 芦屋港の水深 （福岡県資料より作成） ※実測値とは異なります



〔参考〕 現況写真（東防波堤）



(2) 課題

①釣り客のマナー

前述の現状を踏まえ、一部の釣り客のマナー違反に対する漁協や近隣住民からの不満、トラブルが懸念されます。このため、釣り客と漁協の双方が理解できるルールづくりを行い、釣り客に対する啓発を行う必要性があります。

②漁協とのエリア分け

漁協が使用しているエリアには一部にフェンスが設置してありますが、釣り場として整備されている訳ではないため、動線は当然確保されていません。このため、特に漁協事務所の立地する敷地内への車の乗り入れや無断駐車といった迷惑行為が発生しているといえます。

釣り場として開放するにあたっては、漁協エリアとしてエリア分けをするとともに、漁協敷地内や漁協エリア内を通らなくてよい動線の確保が必要となります。

③安全対策の必要性

東防波堤においては、転落防止対策の柵は設置してあるものの、落水時対策のタラップや浮き輪など、国土交通省港湾局が定めるガイドラインによれば、釣り場として開放するための安全対策が欠けているため、これらの整備が必要です。

しかし、既存設備を活用することで、施設整備にかかる費用を抑えて防波堤を開放することが可能といえます。

4 海釣機能導入のあり方

芦屋港については、場所により一定の釣果があり、現状も多くの釣り客が利用していることから、釣り場として活用することは可能であるとの結論に至りました。しかし漁協が立地しているため、漁業従事者との共存が前提となります。

このため、芦屋港及び周辺地域における現状と課題から、釣り場として一部を開放することの是非について漁協とも協議を重ね検討を行った結果、全ての環境を整えるためには時間を要することから、まず芦屋港の活性化に寄与し、漁業従事者に影響の少ない部分から段階的に開放を進めていくこととしました。

これは、安全設備や施設整備の費用なども考慮したもので、同時に検討を行っている直売機能や飲食機能のメインターゲット層やコンセプトとも一致するよう整理したものです。

そこで、海釣機能の導入については、大きく2段階に分けることとしながら、ひとつの段階でも優先度を付け、できる部分・必要な部分から整備していくことを大きな方針としました。

併せて、漁業従事者や近隣住民等の理解を得ながら、それぞれがWIN×WINの関係になるとともに、芦屋町の観光振興を担う関係者との連携による波及効果を生み出すため、機運の醸成や話し合いを重ねていくことが重要であり、時間をかけて取り組まなければならないことを、検討課題として整理しました。

(1) ステップ1

①利用範囲

➤ 東防波堤の一部

延長 160m

幅員 5m

※既設の転落防止柵がある範囲

➤ 考え方

芦屋港内で漁協が使用している範囲を除いた場合、一定の釣果がある場所は限定されています。特に港湾内は砂の堆積もあるため、西側はあまり釣果が期待できない場所といえます。

また、港湾や防波堤を釣り場として開放する場合、安全対策が必要不可欠となります。さらに、漁協が使用しているエリアは漁業従事者の生活の場であるため、釣り客とのエリア分けが必要となります。このようなことから、費用対効果を考慮し、既存で転落防止柵が設置されている東防波堤が適切と判断しました。

この東防波堤は、足場が安定しており、既に転落防止柵が設置してあること、漁協との間にフェンスが設置されており、エリア分けが行われていることなどから、動線の課題はあるものの、施設整備にかかる費用を抑えて開放することができます。

しかし、防波堤の先端部分は航路の安全性の問題が懸念されるため、開放当初は立入禁止が望ましいと考えられます。そのため、先端部分の開放は、漁協・漁業従事者との協議を行い、段階的な整備を検討していくこととします。



②ターゲット層

- メインターゲット層：初心者、ファミリー層
- 考え方

東防波堤は、芦屋港湾内のため一定の釣果はあるものの、魚種が限られており、中級者・上級者向けではありません。しかし、足場が安定しており、初心者や子ども連れが安全に利用できる場所といえます。

また、ファミリーフィッシング in 芦屋の成果からも、特にファミリー層に一定のニーズがあり、東防波堤の釣果を含むポテンシャルとニーズを考慮しました。

さらに、芦屋港西側エリアには直売・飲食施設の整備が検討されていますが、このターゲット層として週末のファミリー層が設定してあることを加味し、魚食体験の場・魚食の拠点として一体的に芦屋港の魅力創出ができると考えました。

③整備内容

- 安全対策上必要となる設備

国土交通省港湾局による「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」に基づき、既設の転落防止柵のほかに、釣り場として開放する場合に必要な設備、施設は次のとおりです。

安全対策上必要となる設備

項目	設備条件	既存	新規	検討	特記事項
転落防止柵	・ 既存設備の活用 ※点検が必要 (高さ1.1m、延長160m、ステンレス製) (構造上、安全対策、釣り利用に支障なし)	●			既存利用
夜間照明	・ 既存設備の活用 (26m間隔で、5箇所)	●			既存利用
フェンス	・ 防波堤北側(突堤)部への侵入禁止対策		●		開放時に設置
救命浮輪	・ 落水時対策 6箇所		●		開放時に設置
救命タラップ	・ 落水時対策 6箇所		●		開放時に設置
啓発看板	・ 利用ルール、マナー、安全対策等の掲示 ※(公財)日本釣振興会と連携		●		開放時に設置
安全管理マニュアル	・ 安全管理を行う上でのガイドライン、 マニュアルの整備		●		開放時に設置
放送設備	・ 天候変化、災害等の危険周知用放送設備			●	段階的に設置検討
防犯カメラ	・ 防犯・安全対策として設置			●	段階的に設置検討

- 付帯施設・設備

釣り場として開放するために必要な安全対策のほかに、無断駐車など周辺地域における課題を解消することや、集客効果を高め芦屋港の魅力に付加価値をつけるため利用者の利便性確保などを目的に、次の施設・設備を整備することとしました。なお、整備に関しては、利用状況に応じて順次整備することとします。

付帯施設・設備

項目	設備条件	既存	新規	検討	特記事項
ゴミ箱	・当面既設のコンテナボックスを利用 (周辺環境を考慮した囲みなどを検討)	●			
駐車場	・1号野積場利用 (5,266㎡)		●		駐輪場を併設
フェンス	・漁協エリアとのエリア分けのためのフェンス (既設を活用するが改修が必要な箇所の改修、 未設置部の新設)		●		
手洗い場 (駐車場内)	・プッシュ式蛇口の手洗い場 (1箇所) ・排水口にうろこ等の詰まり防止対策が必要		●		
トイレ	・駐車場内 1 箇所新設 ・男女、多目的を備える (既製品対応)			●	利用状況により 設置を検討
手洗い場 (防波堤中央部)	・プッシュ式蛇口の手洗い場 (1箇所) ＊防波堤内の上下水道配管工事が必要			●	利用状況、費用対 効果を検証
ベンチ (防波堤)	・釣り場の付加価値として 2～3 箇所設置 ・日よけ、雨除け用の屋根付きを検討			●	利用状況により 設置を検討
救命胴衣	・自己責任として個人で準備を利用ルールとするが、観光案内所でのレンタル品として検討			●	

➤ 利用者サービスに関する設備

利用者サービスに関する設備としては、利用者のニーズに合わせることを目的に、氷や飲料水の販売サービスを整備します。販売サービスにあたっては、漁協の既設設備を活用することとしました。

なお、設備に関しては、利用状況に応じて増設することとします。

利用者サービスに関する設備の整理

項目	設備条件	既存	新規	検討	特記事項
氷販売	・遠賀漁業協同組合芦屋支所・製氷機利用 ・利用にあたって動線など協議調整が必要	●			既存利用
飲料自動販売機	・遠賀漁業協同組合芦屋支所の既存を利用			●	利用状況に応じて、 増設を検討

➤ 整備主体

整備主体に関しては、国土交通省港湾局が発表した「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」では、基本的な考え方として管理者となる者が施設設置の主体になるとの記載があるものの、漁協との関わり方や港湾施設の一部であるため、当専門分科会で決定できるものではないと結論づけました。したがって、整備に関しては港湾管理者である福岡県と芦屋町において今後具体的な協議を行い、決定していくこととしました。

④整備スケジュール

2021 年春に海釣り施設として開放、その後追加で必要な設備・施設を検討のうえ、整備を進めていくこととしました。

なお、このスケジュールは海釣り施設に関するものに限って定めており、芦屋港全体の整備との整合が必要です。

項目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
ハード事業スケジュール				
関係者協議	■			
維持管理者の検討、管理者選定等		■		
実施設計		■		
工事			■	
開放			●	
利用状況・効果測定、設備・施設の検討			■	
実施設計(トイレ等)				■
工事(トイレ等)				■

⑤維持管理

維持管理に関しても、漁協との関わり方や港湾施設の一部であるため、港湾管理者である福岡県と芦屋町において今後具体的な協議を行い決定していかないとはいけません。よって当専門分科会としては、他の事例も参考に行政による整備であるため、行政からの指定管理が最も望ましいと考えます。そのため、今回は行政から芦屋港を管理する団体等に指定管理することを基本方針とします。

⑥利用ルール

利用ルールについては、利用者と漁業従事者が共存していくことを目的に、日本釣振興会「釣りのルール・マナーと安全」が示す6つの内容を基に、芦屋港の利用に即した内容を今後関係者と協議し定めることとします。

利用ルール案

- ・ 釣り場のゴミは必ず持ち帰りましょう。
- ・ 必ずライフジャケットを着用してください。
- ・ 駐車禁止の場所に車は止めないでください。
- ・ 漁師さんの作業場、立入禁止場所には入らないでください。
- ・ 船の係留ロープに絡んだ仕掛けのハリやルアーは回収しましょう。
- ・ 船が近付いたらサオを上げて糸を巻き取りましょう。

〔参考〕公益財団法人日本釣振興会ホームページより「釣りのルール・マナーと安全」



⑦付加価値創出

付加価値の創出について、他の海釣り施設にはないサービスを提供することで、差別化を図ることができ、集客や消費効果も高くなることが考えられます。また、ファミリーフィッシング in 芦屋、ファミリーフィッシング in アクアシアンでの実績や、芦屋町観光協会が実施している着地型観光商品「あしや体験隊」の取り組みから、付加価値の創出について検討を行いました。

特にメインターゲット層であるファミリー層や初心者ニーズが高い、釣り教室や道具のレンタルが効果的であると考えられますが、現状の釣りイベントにおいても、担い手の確保が課題となっており、釣りに精通した組織もないこと、道具のレンタルにおいてはメンテナンス等の管理コストがかかり事業採算性が取れる見込みがないことから、当面は現状のイベントでの対応を継続していくこととし、これを持続可能な事業とするために、担い手の育成といった受け皿の環境を整えることが優先されます。

このため、他地域でも実績がある事例をもとに、講座形式により釣りを学ぶ、初心者を対象としたものや担い手育成を目的としたものを実施していくことが現実的であり、芦屋町においては、生涯学習講座「あしや学」として様々な講座による人材育成にも取り組んでいることから、この生涯学習講座のひとつのプログラムとして組み込むことが効果的と考えられます。

また、今後芦屋港に整備される予定の直売飲食施設や町内飲食店との連携により、釣った魚を持ち込んだ食事提供など、現状でできる取り組みを芦屋町の観光施策と一体となり実施することで、利用者にとって魅力の創出やこの施設の付加価値となり、波及効果にも寄与で

きるものと考えられます。

さらに、漁協の近さを活かした遊魚船についても検討を行いました。漁協ではまだ十分な環境が整っていないため、漁業従事者の機運が高まるなどの環境が整ってからの取り組みとしました。

このようなことから今後、付加価値の創出につながるよう町内の関係者による協議や機運づくりが重要となります。

付加価値（サービス）検討の整理

項目	関係者	検討内容
釣り教室	芦屋町商工会、町内釣具店、愛好家、日本釣振興会	・予約制も含め検討したが、担い手の確保が困難 ・現在開催されている、ファミリーフィッシング（イベント）での活用からスタート ・生涯学習講座での担い手の育成を検討
体験プログラム	芦屋町観光協会、町内釣具店、遠賀漁業協同組合、芦屋町商工会、飲食店等	・観光施策と連携しプログラム創出を検討するが担い手の課題があるため、担い手育成を優先
地域連携	飲食店、芦屋町商工会、芦屋町観光協会、芦屋港内飲食直売施設	・芦屋港内飲食直売施設での魚食の体験や、町内飲食店との連携を検討
釣具のレンタル	町内釣具店、芦屋港管理運営者	・管理形態、採算性から利用状況によって検討
遊魚船	遠賀漁業協同組合	・遠賀漁業協同組合の機運ができた時点で協議

⑧利用料金・利用時間

➤ 施設利用料

無料

➤ 利用時間

24 時間

➤ 考え方

施設利用料について、有料とする場合それに見合った釣果、それが期待できる釣り場いわゆる釣り公園としての設備・サービスの提供が必要となりますが、東防波堤については一定の釣果はあるものの、芦屋港の形態などから釣り公園としての整備は困難であるため、無料としました。

また、利用者の利便性やニーズを考慮すると、東防波堤は 24 時間開放が望ましいものの、釣り場としての管理事務所や管理人の設置・運営を行った場合、利用時間の制限、イニシャルコストに加えランニングコストも発生するため、運営者・利用者それぞれにデメリットがあると考えられます。このため、管理事務所と管理人の設置をせず 24 時間利用可能な海釣り施設としました。

➤ 駐車場利用料

無料

➤ 考え方

釣り利用者の違法駐車問題を解決するために、新たに駐車場を設けようとしています。

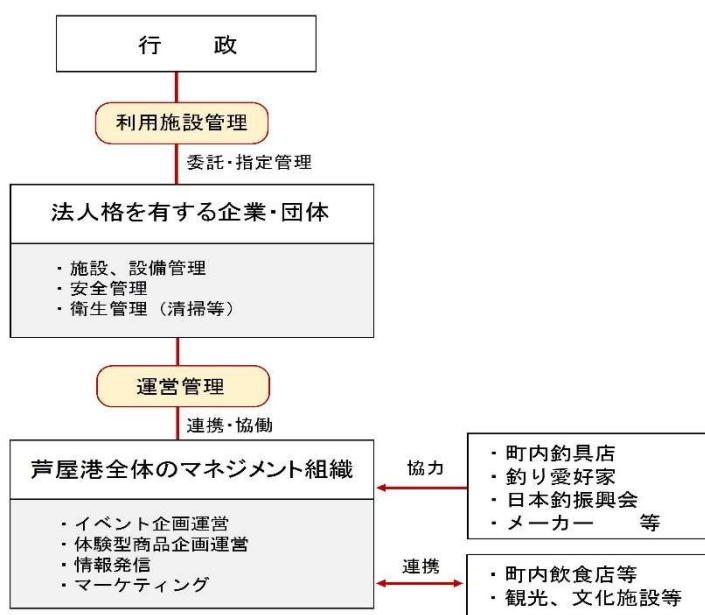
そのため、駐車場利用料のあり方について検討しましたが、現在の芦屋港の状態から有料とした場合、従来違法駐車をしていた利用者が有料の駐車場を利用するとは考え難いと結論づけました。よって、本来の目的である違法駐車や漁協エリアへの無断侵入問題を解決するために駐車場を整備するもので、駐車場利用料は無料としました。

⑨管理運営方法

施設の管理運営については、施設利用料が無料のため管理事務所・管理人の設置は行いませんが、施設・設備の維持管理は必要となります。これについては、行政から法人格を有する企業・団体等への指定管理による維持管理が妥当ですが、芦屋港内に整備される他の施設の維持管理も必要となるため、芦屋港一体の維持管理が望ましいと考えます。

また、付加価値（サービス）の運用・創出については、芦屋港全体をマネジメントする組織による運用が必要不可欠であり、その組織がイベント等の企画運営や情報発信を担い、町内関係者や芦屋港内直売飲食施設との連携を担う必要があります。

管理運営体制イメージ



⑩漁協エリアとのすみわけ、動線の確保

漁協エリアと海釣りエリアとのすみわけ、動線については、釣り利用者のマナー問題解決のため、また漁業従事者と釣り利用者とのトラブルの事前回避のため、両者の利便性を考慮した結果、整備が必要不可欠です。

➤ すみわけ、動線の確保

漁協エリアと海釣りエリアとのすみわけ、動線の確保については、お互いのエリア・動線をフェンスで囲います。

※ステップ1の整備図を参照

➤ 考え方

現状、漁協エリア内の船揚場の無断使用や不法投棄があり、両者間のトラブルや両者の船舶による事故等も危惧されます。

また、漁協の敷地内への侵入や無断駐車など、漁協にとって深刻な問題もあります。

さらに、東防波堤の海釣り施設の開放、1号野積場の駐車場利用開始にあたり、現在釣り客の利用が多い遠賀川河口エリアへの立入り増加も想定されます。これは、釣り客が遠賀川河口エリアへ立ち入る主な動線として、漁協の事務所敷地内を通っているため、海釣り施設の整備にあたっては、現状の動線を整理するよう漁協から要望が出されています。

このため、釣り客と漁業従事者が共存していくために、東防波堤の海釣り施設の開放時に、漁協エリアと海釣りエリアのすみわけ及び遠賀川河口エリアまでの動線を整備する必要があります。

⑪概算事業費

【イニシャルコスト】

約 110,000,000 円

(概算工事費、設計費含む。) ※積算資料は資料編に掲載

【ランニングコスト】

利用施設管理に伴うランニングコストについては、ステップ1で整備する全ての施設・設備が整った場合にかかる、トイレ・手洗い場・外灯の光熱水費、トイレの清掃費用を算出しました。

算出の根拠としては、光熱水費は類似施設を参考とし、清掃費用については町内公衆トイレの委託料をもとに試算しました。

約 1,070,000 円／年間 ※算出根拠は資料編に掲載

⑫集客見込みと経済効果

マーケティング調査において、車で 60 分圏内の人口のうちファミリー層（25 歳～44 歳）は 364,198 人あり、芦屋港の来訪者率を 7%と設定しました（直売機能専門部会及び飲食機能専門分科会と同じ率で算出）。これにより、芦屋港への来訪者は 25,494 人となり、そのうち、海釣り施設利用の参加率を 6.9%（レジャー白書 2017 を参考）、年間 1.5 回程度来場すると仮定し、年間集客見込みを算出しました。

ファミリー層の年間来場者数 $25,494 \text{ 人} \times 6.9\% \times 1.5 \text{ 回} / \text{年} = 2,639 \text{ 人} \approx \underline{\underline{2,600 \text{ 人}}}$

【経済効果】

海釣り施設整備に伴う経済効果については、上記の集客見込み数をもとに、芦屋港を利用する釣り客の町内釣具店における1人当たりの釣具・エサ等の購入費平均額1,200円を乗じて試算しました。

3,120,000円／年間 ※算出根拠は資料に掲載

なお、飲食・直売施設、町内での飲食、宿泊費等は除く釣りでの直接消費として試算しているため、他地域の事例からも、芦屋港に整備される他の施設や町内飲食店などのほか、芦屋町の観光施策と連携することで、更なる経済効果が期待できます。

➤ 考察

以上のことから、運営面においては、施設利用料は徴収しないものの、ランニングコスト以上に、町内への経済効果が期待できます。このことは、国土交通省港湾局が推進する、『既存港湾施設を活用した観光振興』に一致するものであるといえます。

(2) ステップ2

①利用範囲

➤ 遠賀川河口防波堤

延長115m

幅員9m（コンクリート部分4m、石積み部分5m）

※当該範囲は国土交通省遠賀川河川事務所所管部分

➤ 考え方

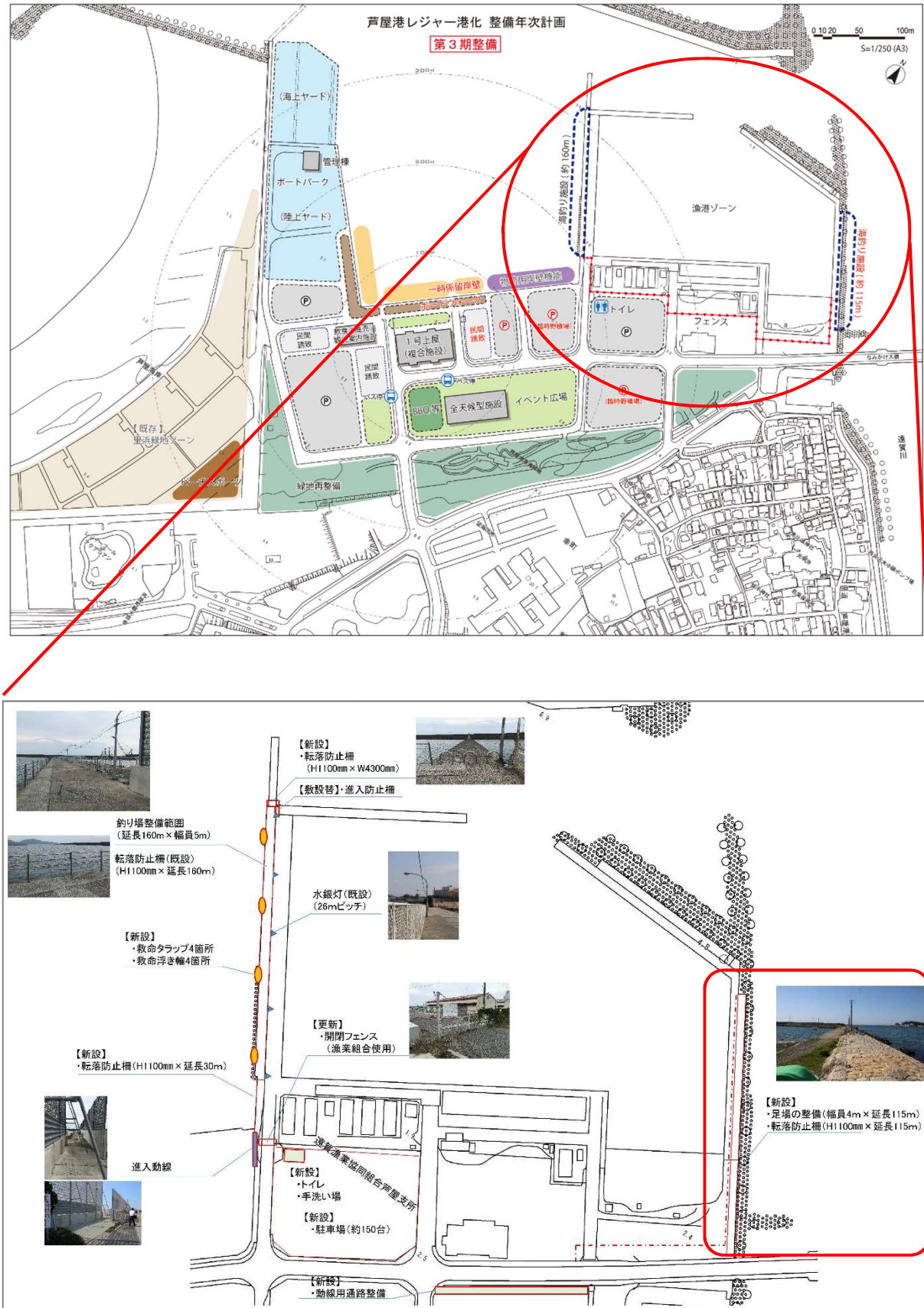
将来的に海釣り施設として開放する範囲として、現状多くの利用者があり、汽水域でスズキやチヌ等多種多様な魚種の釣果が見込まれる遠賀川河口防波堤が、芦屋港の釣り場としての価値を高めるために効果的と考えられます。

しかし、当該箇所は、遠賀川の河川区域であり、導流堤は国土交通省河川局（遠賀川河川事務所）の所管施設となっています。

また、釣り場としての開放のためには、防波堤石積み部分のフラット化、電柱・電線の敷設など、国土交通省港湾局による「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」に基づいた整備など、主に釣り利用者の安全を確保するために必要な設備の整備が必要となります。

このため、整備にあたっては、当該箇所の所管である遠賀川河川事務所、その一部に対し占有許可を受けている港湾管理者の福岡県、現在利用している漁協との協議・調整が必要なため、今後釣り施設としての開放可否を含めた検討を行っていきます。

ステップ2 遠賀川防波堤の海釣り開放に向けた整備図



②整備内容

➤ 安全対策上必要となる設備

現状防波堤の部分がコンクリート部分と石積み部分になっており、利用開放にあたっては足場を安定させるためフラット化し、東防波堤と同様に国土交通省港湾局による「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」に基づいた安全対策の整備が必要となります。ただし、このガイドラインは国土交通省港湾局が定めた港湾施設の防波堤が主な対象であると考えられるため、当該箇所は所管が異なるため双方の調整が必要となります。そのためここでは、整備可能となる前提で必要な整備内容について整理しました。

特に石積み部分のフラット化については、大きな整備費用が見込まれるため、安価な整備方法を検討する必要があります。

また、導流堤上には、沖の導流堤2箇所に設置してある目印灯用として電柱及び電線があり、この電線への釣り糸等のひっかかりも現在多く発生しており、管理する漁協の維持管理の負担が大きく、この軽減や、感電等利用者の安全確保の視点からも、電柱を撤去し電線を地上に敷設する方法について検討する必要があります。



安全対策上必要となる設備の整理

項目	設備条件	既存	新規	検討	特記事項
足場の整備	・延長115m、幅員5mの石積み部分フラット化（工法は要検討）		●		開放時に設置が必要
転落防止柵	・石積み部分フラット化に併せ、設置		●		開放時に設置が必要
救命浮輪	・落水時対策として設置 4箇所程度		●		開放時に設置が必要
救命タラップ	・落水時対策として設置 4箇所程度		●		開放時に設置が必要
啓発看板	・利用ルール、マナー、安全対策等の掲示 ※日本釣振興会と連携		●		開放時に設置
安全管理マニュアル	・安全管理を行う上でのガイドライン、マニュアルの整備		●		開放時に整備
電柱の撤去 電線の移設	・釣り糸のひっかかり防止と漁協の維持管理軽減のため、電柱撤去、電線の地上敷設（工法の検討を要する）		●		開放時に移設が望ましい
放送設備	・天候変化、災害等の危険周知用放送設備			●	東防波堤と併せて検討
防犯カメラ	・防犯・安全対策として設置			●	東防波堤と併せて検討

➤ 付帯施設・設備

釣り場として開放するために必要な安全対策のほかに利用者の利便性確保などを目的に、次の施設・設備を整備します。なお整備に関しては、利用状況に応じて順次整備することとします。

付帯施設・設備の整理

項目	設備条件	既存	新規	検討	特記事項
ゴミ箱	・ゴミ回収ボックス(1ヵ所)		●		
手洗い場 (駐車場内)	・プッシュ式蛇口の手洗い場(1箇所) ・排水口にうろこ等の詰まり防止対策が必要		●		
ベンチ(防波堤)	・釣り場の付加価値として2～3箇所設置 ・日よけ、雨除け用の屋根付きを検討			●	東防波堤の利用状況により検討

➤ 整備主体

整備主体に関しては、ステップ1同様当専門分科会で決定できるものではないと結論づけました。したがって、当該箇所の所管である国土交通省遠賀川河川事務所、港湾管理者である福岡県、利用者の漁協、運営する芦屋町において今後具体的な協議を行い決定していくこととしました。

③整備スケジュール

2028年度中の開放に向けて、各関係機関との協議・調整のうえ整備を進めていきます。

項目	2027年度				2028年度			
ハード事業スケジュール								
基本設計(測量、地盤・地質調査含む)			■					
実施設計			■					
工事					■	■	■	■
開放(遠賀川河口防波堤)								●

④維持管理

維持管理に関しても、ステップ1同様当該箇所の所管である国土交通省遠賀川河川事務所、港湾管理者である福岡県と芦屋町で今後具体的な協議を行い、決定していかないとはいけません。したがって、当専門分科会としては、他の事例も参考に、施設整備が行政によるものであることから、行政からの指定管理が最も望ましいと考えます。

このため、今回は行政から芦屋港全体を管理する団体等に指定管理することを基本方針とします。

5 今後の検討課題

海釣り施設として開放するためには、漁協との協議は不可欠で、漁業従事者に迷惑をかける形でのルールづくりが必要となります。また、漁業従事者にとってプラスとなる取り組みについても検討・協議することで、機運の醸成を図りながら徐々に事業を推進できるよう取り組んでいくことも大切です。

特に、体験プログラムについては非常に利用者ニーズが高く、釣り施設としての付加価値を高めることにも繋がるため、担い手の育成や地元関係者の機運づくりが重要となります。

このため、芦屋港活性化のためにはさらに検討が必要な課題も明らかになってきましたので、今後整備を進めるうえで詳細検討を進めていくこととし、次のとおり整理を行います。

(1) 整備に関する詳細検討

- ①基本設計時に、詳細検討の実施

(2) ステップ1（東防波堤利用開放）に向けての検討課題

- ①漁協・漁業従事者と海釣り利用者の共存、相互理解のための協議、意見交換
- ②漁協・漁業従事者、地元関係者との安全対策、利用ルール・マナーの詳細な検討
- ③東防波堤先端部分の開放に向けての協議
- ④利用状況の調査・把握、効果検証による段階整備の検討

(3) 施設整備・管理運営に関する検討課題

- ①整備主体の関係者協議・調整
- ②維持管理体制の具体的協議・調整
- ③運営主体の具体化検討（指定管理者の決定など）
- ④地元釣具店や日本釣振興会と連携した、釣り客への利用ルール・マナーの周知の徹底方法の検討

(4) 付加価値創出に向けた検討課題

- ①漁協・漁業従事者にとってプラスとなる、魅力ある海釣り施設とするための付加価値の検討と協議
- ②初心者向け教室、担い手の育成講座の検討（生涯学習講座の活用）
- ③体験プログラムの造成（あしや体験隊の活用）
- ④バリアフリーに関する設備の検討

(5) ステップ2（遠賀川河口堤防利用開放）に向けた検討課題

- ①開放にむけた関係者協議・調整
- ②遠賀漁業協同組合芦屋支所との共存・機運の醸成

資 料 編

- 1 国土交通省による防波堤解放と釣り文化振興公表資料
- 2 日本釣振興会による防波堤開放による釣り場確保事業
- 3 国土交通省によるガイドライン（抜粋）
- 4 商圏人口の分析
- 5 釣り人口の推移（レジャー白書より）
- 6 芦屋町の観光入込客
- 7 ファミリーフィッシング成果
- 8 関係者ヒアリング結果
- 9 近隣海釣施設の概要
- 10 事業費積算資料
- 11 ランニングコスト
- 12 経済効果
- 13 公益社団法人日本釣振興会について
- 14 検討の経緯
- 15 分科会委員名簿

1 国土交通省による防波堤解放と釣り文化振興公表資料

○国土交通省港湾局海洋・環境課による公表資料（国土交通省ホームページより抜粋）

**国土交通省**

[ホーム](#) [国土交通省について](#) [報道・広報](#) [政策・法令・予算](#) [オープンデータ](#) [お問い合わせ・申請](#)

報道・広報

[ホーム](#) > [報道・広報](#) > [報道発表資料](#) > 既存の港湾施設を活用した日本の釣り文化の振興
～（公財）日本釣振興会と連携し、港湾において観光の取組みを進めます～

**既存の港湾施設を活用した日本の釣り文化の振興
～（公財）日本釣振興会と連携し、港湾において観光の取組みを進めます～**

平成30年3月15日

地方創生を目的とした観光の取組みを政府全体で進めている中、港湾局では、観光資源としての既存インフラの有効活用や港湾における文化振興の一環として、港湾における釣り施設や既存の防波堤の利活用を進めています。

これらの取り組みの一環として、日本釣振興会との連携により、平成30年度に全国35港において釣り体験教室等のイベントが開催されます。また、日本釣振興会等と連携し、青森港、秋田港の2港において防波堤の一般開放を進めるための検討会を設置しており、今年夏頃の試験開放に向けて、関係者との調整や安全対策の検討を進めます。

全国の港湾では、現在50港（66施設）で釣り施設を供用しており、そのうち12港（12施設）については、防波堤を釣り施設として一般開放しています。（平成29年6月時点）

このうち熱海港では、防波堤を釣り施設として一般開放しており、年間を通じて約3万6千人（平成28年）の利用者が訪れ、利用者が近隣の飲食店や旅館を利用するなど、地元への経済波及効果が大きくなっています。（平成18年度の一般開放当初に比べて、熱海市の収益は約3倍に増加、近隣の飲食店等の収益も約2割増加。）

今後、港湾局と日本釣振興会は、既存インフラである港湾の釣り施設や防波堤等の有効活用や港湾における日本の釣り文化振興をさらに進めるため、熱海港をモデルとして、連携を強化します。

具体的には、日本釣振興会、水産庁と連携し、平成30年度の日本釣振興会の取り組みとして、新規3港を含む全国35港において、釣り体験教室、放流事業等のイベントが開催されます。また、日本釣振興会等と連携し、青森港と秋田港で、防波堤を新たな釣り施設として一般開放するための検討会を設置しております。これらの2港では、「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」（平成28年度改定）の内容を踏まえ、今後関係者との調整を行いつつ、防波堤の試験開放や本格的な一般開放を進めます。

今後、港湾の釣り施設や防波堤の一般開放を活用した観光や釣り文化の振興に取り組む港湾を「みなとフィッシングパーク（仮称）」として重点的に支援することや、みなとオアシス協議会との連携、訪日クルーズ旅客の釣り参加、水産庁の協力の下、地元漁業協同組合等が推進する魚食普及の取り組みとの連携も視野に入れて、取り組みを積極的に進めて参ります。

※日本釣振興会：釣りの全国団体で公益財団法人。全国各地において釣り体験教室や釣り場の清掃活動、魚の放流事業といった釣りの振興に関する取組みを実施しています。

添付資料

[報道発表資料](#)（PDF形式） 

[参考資料](#)（PDF形式） 



平成30年3月15日

港湾局海洋・環境課

既存の港湾施設を活用した日本の釣り文化の振興 ～(公財)日本釣振興会と連携し、港湾において観光の取組みを進めます～

地方創生を目的とした観光の取組みを政府全体で進めている中、港湾局では、観光資源としての既存インフラの有効活用や港湾における文化振興の一環として、港湾における釣り施設や既存の防波堤の利活用を進めています。

これらの取組みの一環として、日本釣振興会との連携により、平成30年度に全国35港において釣り体験教室等のイベントが開催されます。また、日本釣振興会等と連携し、青森港、秋田港の2港において防波堤の一般開放を進めるための検討会を設置しており、今年夏頃の試験開放に向けて、関係者との調整や安全対策の検討を進めます。

全国の港湾では、現在50港(66施設)で釣り施設を供用しており、そのうち12港(12施設)については、防波堤を釣り施設として一般開放しています。(平成29年6月時点)

このうち熱海港では、防波堤を釣り施設として一般開放しており、年間を通じて約3万6千人(平成28年)の利用者が訪れ、利用者が近隣の飲食店や旅館を利用するなど、地元への経済波及効果が大きくなっています。(平成18年度の一般開放当初に比べて、熱海市の収益は約3倍に増加、近隣の飲食店等の収益も約2割増加。)

今般、港湾局と日本釣振興会は、既存インフラである港湾の釣り施設や防波堤等の有効活用や港湾における日本の釣り文化振興をさらに進めるため、熱海港をモデルとして、連携を強化します。

具体的には、日本釣振興会、水産庁と連携し、平成30年度の日本釣振興会の取組みとして、新規3港を含む全国35港において、釣り体験教室、放流事業等のイベントが開催されます。また、日本釣振興会等と連携し、青森港と秋田港で、防波堤を新たな釣り施設として一般開放するための検討会を設置しております。これらの2港では、「防波堤等の多目的使用に関するガイドライン」(平成28年度改定)の内容を踏まえ、今後関係者との調整を行いつつ、防波堤の試験開放や本格的な一般開放を進めます。

今後、港湾の釣り施設や防波堤の一般開放を活用した観光や釣り文化の振興に取り組む港湾を「みなとフィッシングパーク(仮称)」として重点的に支援することや、みなとオアシス協議会との連携、訪日クルーズ旅客の釣り参加、水産庁の協力の下、地元漁業協同組合等が推進する魚食普及の取組みとの連携も視野に入れて、取組みを積極的に進めて参ります。

※日本釣振興会:釣りの全国団体で公益財団法人。全国各地において釣り体験教室や釣り場の清掃活動、魚の放流事業といった釣りの振興に関する取組みを実施しています。

【参考】港湾における釣り施設一覧(H29.6.1時点)

- 全国50港湾において66施設の釣り施設が供用中。
- そのうち、防波堤を釣り施設として一般開放しているものは12施設。
- 平成30年度においては、35港で釣り体験教室や放流事業を実施予定。そのうち青森港、秋田港、船川港については釣り体験教室等を新規に開催予定。

- 凡 例
- 釣り施設を有する港湾のうち、防波堤を釣り施設として一般開放している港湾 12港
 - 釣り施設を有する港湾 38港
 - 新たな防波堤の開放要望がある港湾 9港
 - 平成30年度に釣り関係イベントを開催予定の港湾 35港

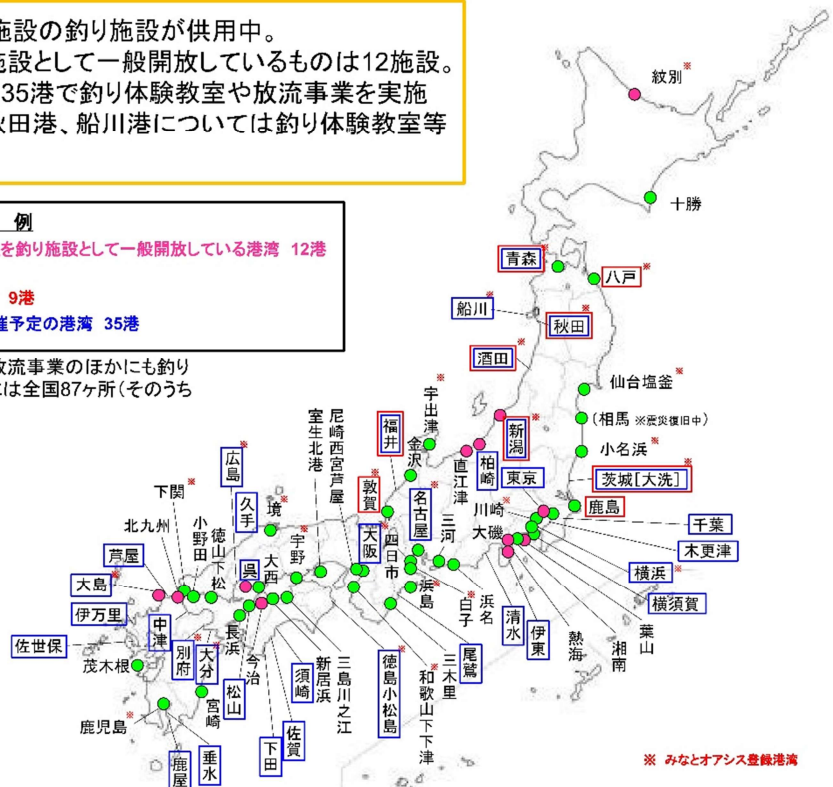
日本釣振興会では、釣り体験教室や放流事業のほかにも釣り場清掃活動を実施しており、2017年には全国87ヶ所(そのうち港湾は13ヶ所)で清掃を実施した。

【港湾の釣り施設の例】

<横浜港>大黒海釣り施設(機橋)



<新潟港>東港区第2防波堤



※ みなとオアシス登録港湾

【参考】先進事例(熱海港の取り組み)

- 「立入禁止」の防波堤で釣り人の転落死亡事故が発生。死亡事故が起きないように、安全管理を徹底した上で、あえて「釣り観光施設」として防波堤を開放。(施設開放以降、死亡事故は発生していない。)
- 日本釣振興会(日釣振)と運営NPOが営業・広報活動を行い、観光資源として市、市内飲食店連合、商工会、周辺施設が連携して、観光客サービスを展開することで観光振興を実現。

■安全管理の取り組み

事故の発生

- ・立入禁止の防波堤で高波を受け、釣り人17名が転落。
- ・うち2名が死亡する事故が発生。(H14.10.13)

安全対策の取り組み

- ・ハード面 (県)転落防止フェンス (市)救命環・タラップ、防潮門扉、風向風速計管理棟、放送設備 等
- ・ソフト面 (NPO)非常時対応訓練 運営管理要綱作成 施設閉鎖基準マニュアル作成 等

ファミリー、女性等でも、気軽に安全に楽しく釣りができる場所の提供を実現。



■地域活性化の取り組み

釣り施設としての取り組み(施設運営法人SEA WEB)

- ・貸し竿の充実
- ・JR東日本(びゅうプラザ)で貸竿クーポン券の販売
- ・JTBオンラインチャンネルを活用した釣り体験等販売促進
- ・親子釣り教室、
- ・年数回の無料釣り講習会(日釣振)

地域が連携した観光施設としての取り組み

- ・「観光施設」として、近隣の施設や各種店舗等との連携で地元経済へ貢献、経済効果を上げることで防波堤開放に対する地元の理解を獲得。
- ・市内提携飲食店で釣った魚の料理提供
- ・温泉施設との提携
- ・官民一体のイベントの開催(おさかなフェスティバル)



おさかなフェスティバル

釣った魚の調理をしてくれる店の紹介

【効果】(防波利用者)H18年度12,285人⇒H28年35,894人、(約3倍)、(近隣飲食店、施設)収益が約2割上昇 (市の収益金)H18年度791万円⇒H28年度2,342万円(約3倍)

2 防波堤等の多目的使用に関するガイドライン

※本編は別冊として添付

3 日本釣振興会による防波堤開放による釣り場確保事業

○公益財団法人日本釣振興会事業紹介から該当部分抜粋（同会ホームページより抜粋）



公益財団法人 日本釣振興会
Japan Sportfishing Foundation

[TOP](#)[事業紹介](#)[釣りのルール・マナーと安全](#)[日釣振とは](#)[支部一覧](#)

[事業紹介](#)[釣り場の確保（防波堤開放等）](#)

事業紹介

[釣り場を増やす活動](#)

釣り場の確保（防波堤開放等）



<目的>
昔は、目の前の海で、川で、魚が釣れたのということをよく聞きます。
海からは何キロも離れてしまい、川はコンクリートの蓋がされてしまいました。
都市の拡大、産業の発展、総合開発や河川・海岸の補修、埋め立て地の拡大等により、自然・水辺環境が悪化し魚の棲みにくい環境となっています。
手遅に出来た釣りも、遥か昔のことになってしまい、全国的に釣りの出来る場所が年々減ってきています。
青少年たちが友達同士で行っても、安全で楽しめる釣り場を提供することが大人たちの責任ではないでしょうか。
日釣振は安全で手近な釣り施設の設置の推進に力を入れていきます。

- 港湾の一時開放と釣り公園施設設置の陳情
各県の港湾を管理する部署や国交省港湾局に、継続的に一時開放や海釣り施設の設置について陳情しています。
- 防波堤等の多目的使用に関するガイドライン（出所：国土交通省港湾局）**New!**
- 平成25年1月までに開放・一時開放した港湾施設
- 釣り施設としての使用を行政と話し合った研究会・検討会
- 全国海釣り公園設置の要望を国交省・水産庁に提出
- 釣り人の漁港の利用
全国の漁港は水産物の集配加工基地としての機能を持っています。漁港の管理は地方行政及び漁業協同組合が行っています。勝手に釣り人が入れば作業の邪魔になりますし、ゴミなどを捨ててくれば更に迷惑を掛けることになります。管理者の許可を貰い、作業の邪魔にならないところで、ルール・マナーを守って釣りをするようにして下さい。
- フィッシャリーナのように、各地に、ボート所有者や釣り人と共存を図る試みも行われています。
富山県黒部市の石田フィッシャリーナ釣り施設
富山県水橋フィッシャリーナ施設（平成22年以降）
- 離島振興策の一環として釣り施設を重要な施策にしており、日釣振も地区支部、県支部を挙げて協力しております。
- 大島海洋体験施設 うみんぐ大島
- 関連記事
- 今後各都道府県支部を中心に漁業者の理解を得ながら、釣り施設の拡大を推進していきたいと存じます。
その為には1にも、2にも釣り人のルール・マナーの遵守と水辺の美化に心掛けることが必要です。

事業紹介

[1 魚を増やす活動](#)[2 釣り教室・大会](#)[3 水辺の環境活動](#)[4 つり環境ビジョン](#)[5 釣り場を増やす活動](#)

[釣り場の確保（防波堤開放等）](#)

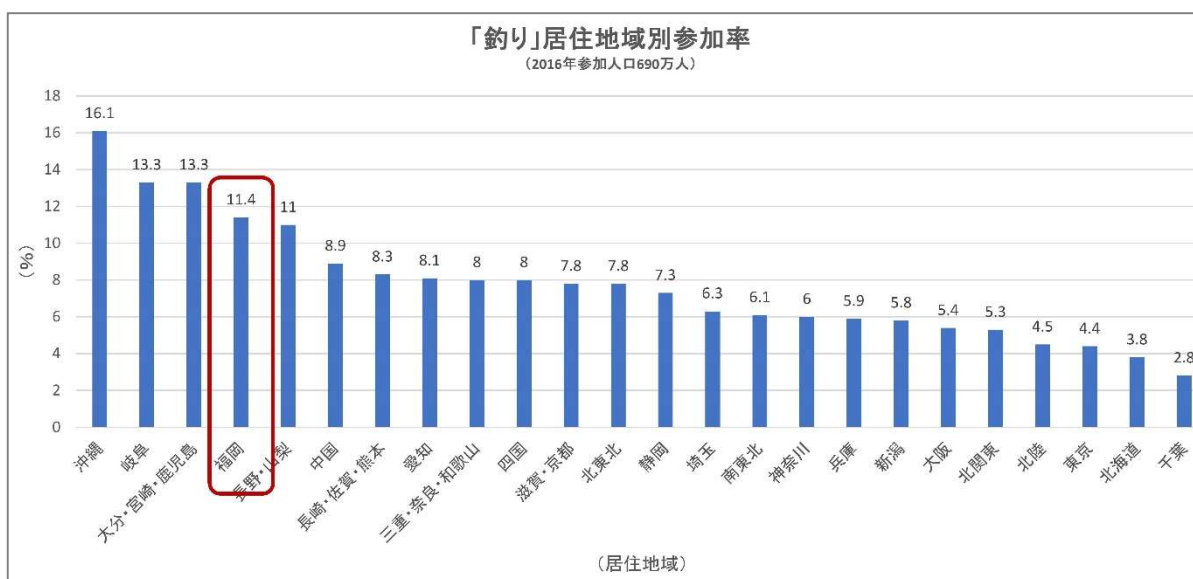
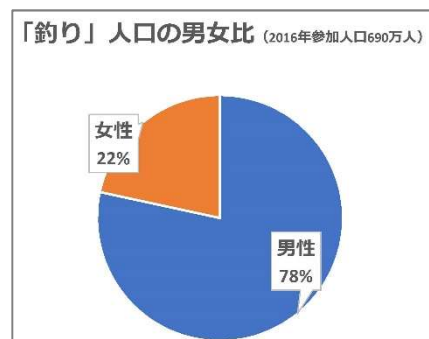
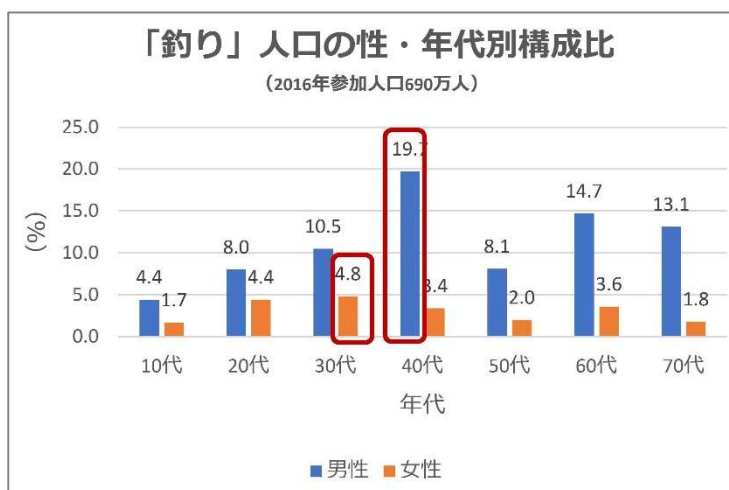
[6 釣り文化資料室](#)[7 募金](#)[8 その他の活動](#)

4 「釣り」人口の傾向（日本レジャー白書 2017 より）



釣り人口は減少傾向にあるものの、近年ほぼ横ばいで推移している。

釣り人口の年齢別構成でみると、40代男性が突出しており、女性では30代が最も多いことから、ファミリー層での需要も一定あると推察される。



居住地別参加率では、九州地方が上位にあり、福岡県は第4位（構成比率 11.4%）と釣り人口が多い地域ということがいえる。

5 商圏人口

直売機能専門分科会及び飲食機能専門分科会において商圏人口分析を行っており、そのデータを活用した。ここでは、商圏人口分布と商圏人口を抜粋して掲載。

○商圏の設定

- ・1次商圏：車で20分圏内 人口規模 188,396人
- ・2次商圏：車で40分圏内 人口規模 699,620人
- ・3次商圏：車で60分圏内 人口規模：1,577,377人



○芦屋港のボリュームゾーンとして捉えるターゲット層人口

(飲食機能専門分科会・直売機能専門分科会資料より抜粋)

芦屋港を中心とする商圏は、1次商圏：自動車で20分圏内、2次商圏：40分圏内、3次商圏60分圏内とし整理した。また、メインターゲットの人口は下記の通りである。

《メインターゲット》

- ・車で60分圏内に住むファミリー層(25～44歳人口)：364,198人
- ・車で40分圏内に住むアクティブシニア(65歳～74歳)：104,601人

芦屋港 商圈別人口（2015 年度 国勢調査 実績値を活用）

	1 次商圈 (車 20 分)	2 次商圈 (車 40 分)	3 次商圈 (車 60 分)
人口総数	188,396	699,620	1,577,377
男性人口	89,647	329,558	743,105
女性人口	98,749	370,062	834,272
世帯数	77,971	292,768	675,450
人口（0-4 歳）	8,141	28,565	65,247
人口（5-9 歳）	8,690	30,633	68,453
人口（10-14 歳）	8,771	31,189	69,165
人口（15-19 歳）	9,409	33,067	74,867
人口（20-24 歳）	9,758	30,946	72,318
人口（25-29 歳）	9,102	31,751	72,808
人口（30-34 歳）	10,506	37,505	85,602
人口（35-39 歳）	11,691	41,692	96,575
人口（40-44 歳）	12,992	47,897	109,213
人口（45-49 歳）	10,691	41,204	93,693
人口（50-54 歳）	10,789	39,768	89,435
人口（55-59 歳）	11,932	42,811	95,124
人口（60-64 歳）	14,001	51,701	114,867
人口（65-69 歳）	15,336	58,211	130,416
人口（70-74 歳）	11,588	46,390	101,638
人口（75-79 歳）	9,197	38,258	84,239
人口（80-84 歳）	7,125	30,564	68,271
人口（85 歳以上）	7,043	31,031	68,362
人口（年齢不詳）	1,666	6,625	17,456

合計 364,198 人

※海釣機能専門分科会において、
集客見込み積算に活用した
データ

6 芦屋町の観光入込客の動向

- ・ 芦屋町を訪れる観光客数は、年々増加傾向にあり、平成 28 年は、約 63 万人が訪れています。その内訳は、日帰客数が大半であり、宿泊客は若干の減少傾向にあります。また、県内外の内訳では、県内客がほとんどとなっています。
- ・ 施設別では、マリンテラスあしやの消費額が最も大きく 3.3 億円、来訪者は、レジャープールアクアシアンが最も多く、約 13 万人となっています。

芦屋町の観光入込客数の推移（平成 28 年福岡県観光入込客推計調査）（千人）

	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
総数	498	572	570	564	652	634
日帰客数	476	548	546	548	631	615
宿泊客数	22	24	24	16	21	19
県外	18	29	28	28	32	3
県内	480	543	542	536	620	631



■ 芦屋町とその周辺地域の観光入込客数・消費額

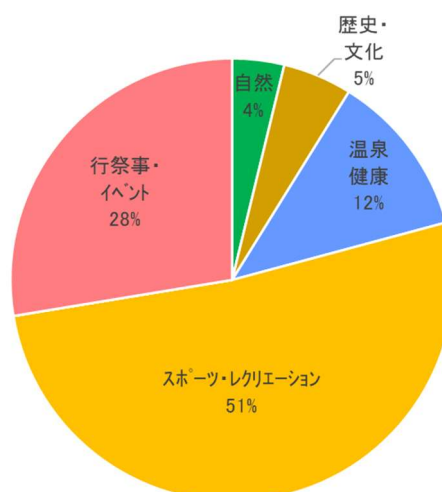
- ・ 芦屋町を訪れる観光客をターゲットとする場合の市場規模を想定するため、芦屋町や周辺地域の観光客数、消費額を把握します。
- ・ 芦屋町の近隣地域では、北九州市が入込総数 2,543 万人で最も多くなっていますが、北九州都市圏域の他市町の入込客数は全体的に少ない傾向にあります。北九州都市圏域内でみると、芦屋町の入込客数は相対的には多いものの、北九州市以外は総じて低い水準となっています。
- ・ 宗像市、福津市等の海岸線を共有する地域と比較すると、岡垣町、芦屋町の入込総数が相対的に少なくなっています。
- ・ 入込総数に占める宿泊者の割合は、北九州市を除くと芦屋町を含め 0～6%程度にとどまり、県全体 10%強と比較しても低い数値を示しています。

芦屋町と周辺地域の観光入込客数と消費額（平成 28 年福岡県観光入込客推計調査）

市町村	総数 (千人)	日帰 (千人)	宿泊 (千人)	県外 (千人)	県内 (千人)	消費額 (百万円)
芦屋町	634	615	19	3	631	371
北九州市	25,433	21,643	3,790	7,223	18,210	141,870
中間市	56	56	0	0	56	－
水巻町	156	156	0	0	156	－
岡垣町	350	341	9	49	301	－
遠賀町	84	84	0	4	80	561
直方市	972	905	67	85	887	－
鞍手町	358	358	0	3	355	804
宮若市	1,030	953	77	309	721	－
小竹町	43	43		3	40	468
宗像市	6,946	6,587	359	1,255	5,691	7,307
福津市	5,622	5,615	7	910	4,712	－
福岡県合計	88,644	78,678	9,966	27,039	61,605	585,168

■ 芦屋町への訪問目的

- ・ 芦屋町への訪問目的をみると、スポーツ・レクリエーションが最も多く 51%、次いで、行祭事、イベントが 28%となっています。これは、レジャープールアクアシアンによる夏季の集客と、あしや花火大会、あしや砂像展、芦屋基地航空祭による集客が大きいためと考えられます。



7 ファミリーフィッシング in 芦屋の概要と成果

○事業概要

初心者、ファミリーを対象に釣りに興味を持ってもらうことを目的として、手ぶらで参加できる釣りイベントとして、（公財）日本釣振興会福岡県支部の協力のもと開催。

ファミリーフィッシング in 芦屋		
開 催	年 1 回	（平成 30 年 6 月 3 日に開催）今年で 5 回目
場 所	芦屋港	
主 催	芦屋町商工会青年部	
協 力	（公財）日本釣振興会福岡県支部	
参加者	300 人程度	
内 容	○釣り体験教室 ○稚魚の放流 等	

【ファミリーフィッシング in 芦屋 過去の参加者数】

開催年月	当日参加者数（申込数）	イベント内容
平成26年 9月 7日	50組 198人	親子釣り大会、稚魚放流、捌き方教室
平成27年 9月 6日	(80組 245人)	＊荒天のため中止
平成28年10月18日	23組 66人	親子釣り教室、稚魚放流
平成28年 9月 4日	(67組 101人)	＊台風のため中止
平成28年 9月25日	37組 56人	親子釣り教室、稚魚放流
平成29年 5月28日	30組 80人	親子釣り教室、稚魚放流
平成30年 6月 3日	72組 103人	親子釣り教室、稚魚放流

レジャープールアクアシアにニジマス 5,000 匹を放流し、釣りの楽しさを体験できるイベントとして、（公財）日本釣振興会福岡県支部と共催で開催。

ファミリーフィッシング in アクアシア		
開 催	年 1 回	（平成 30 年 11 月 11 日に開催）今年で 4 回目
場 所	レジャープールアクアシア	
主 催	芦屋町商工会青年部	
共 催	（公財）日本釣振興会福岡県支部	
参加者	1,300 人程度	
内 容	○ニジマス釣り体験教室 等	

【ファミリーフィッシング in アクアシア 過去の参加者数】

開催年月	イベント参加者数	総来場者数	ニジマス数
平成27年11月15日	510人	1,282人	1,500匹
平成28年11月13日	1,001人	2,065人	3,500匹
平成29年11月12日	1,289人	3,050人	4,500匹
平成30年11月11日	1,295人	3,164人	5,000匹

5項目をこなせる「戸屋の島、大サシプロジェクト」
「アサヒリーフィッシュン」開催中
全日程は毎月開催です。
釣り初心者でも、
ベテランスタッフたちが
サポートしますので
釣りの楽しさを
体験できます！
無料
参加してね！

Family Fishing in Ashiya

お魚屋の、毎日、大サシプロジェクト

釣った魚の鮮度を
煮てお品出し！

獲魚の放流

先着100名
お魚屋の、毎日、大サシプロジェクト
参加者限定

お申し込み方法
5月8日(火) 10時～
ホームページにてお申し込みください。
なお、電話での受付は行っておりませんので
ご了承ください。
※詳しくは公式ページをご覧ください。
<http://www.ashiyaishoko.com/seinenbu>

平成30年 6月3日 日
開催場所：芦屋港湾 8:00～受付
荒天中止
参加費 (1人1名、1名1日)
1名: 2,000円 2名: 3,000円
※お魚は2匹までですが、サシ・コイ・アサヒ・ウツリ・メダカ・シロ・ハコ
もご利用です。

2018年1月開催予定
レジャー
フィッシング
マジマス釣り!

お問い合わせ：戸屋町商工会
受付時間：10時～17時、土日祝日を除く
芦屋町中ノ島9-52 TEL.093-222-2111

主催 芦屋町商工会青年部
後援 芦屋市 芦屋区 芦屋市商工会
協賛 芦屋市商工会 芦屋市商工会 芦屋市商工会

QRコード

ファミリーフィッシング in アクアシアン

まだ知らない「釣り」がそこにある

Family Fishing 4th

in AQUASIA!

C'mon,Baby! F.F.A.!

平成30年 **11月11日(日)** 9:00~17:00
入場は、16:30まで 雨天中止

開催場所 **高浜公園レジャープール** (〒780-0284 徳島県大学南1455-284)

プールに放たれた**4,500匹**のニジマスを釣りあげよう!
釣った魚をその場で食べられるBBQコーナーを開催!
釣りをなくとも当日立ち寄って食べて頂けるイベントが盛りだくさん!! **C'mon, Baby! アクアアジア!!**

大人無料
1人100円
(先着0円)
※当日券は、受付開始前にお申し込みください。

JA青年部 新鮮やさしい
♪美味し♪

トレジャーハント 釣る!宝探し!
子ども限定
参加費 3〜15歳

釣りの射的当て
子ども向け イベント多数!

事前申込のおこまりやすさ
ニジマス釣り体験

要予約 **先着1,300名**

参加料 (当日払) **1人 500円**(3歳まで)
(半代、エサ代等含む)

お問合せ先：芦屋町商工会
TEL:089-322-5111 (芦屋町・大正町・西条町)
FAX:089-322-5111 (芦屋町・大正町・西条町)
Eメール: info@shirayama-shoukaigokai.jp
※本会では、釣具や餌などの販売も行っております。
※本会では、釣具や餌などの販売も行っております。

主催：芦屋町商工会青年部
共催：(公財)日本釣振興会徳島南支店
後援：芦屋町・芦屋町教育委員会・(一社)芦屋町観光協会・北九州市教育委員会
協力：JA北九道支店中間支部 青年部同友会

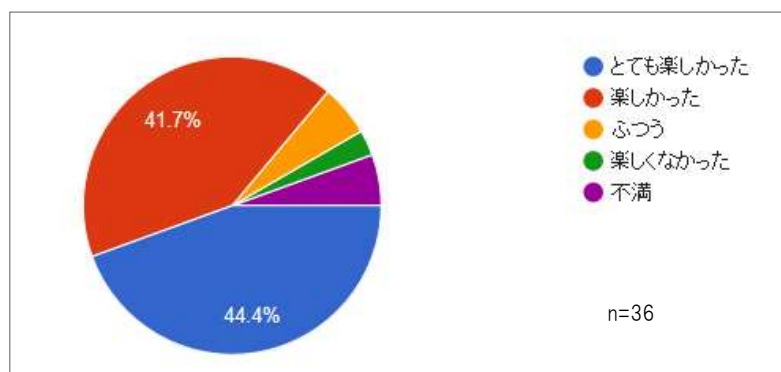


○参加者アンケート結果

（ファミリーフィッシング in 芦屋アンケート結果（芦屋町商工会）より）

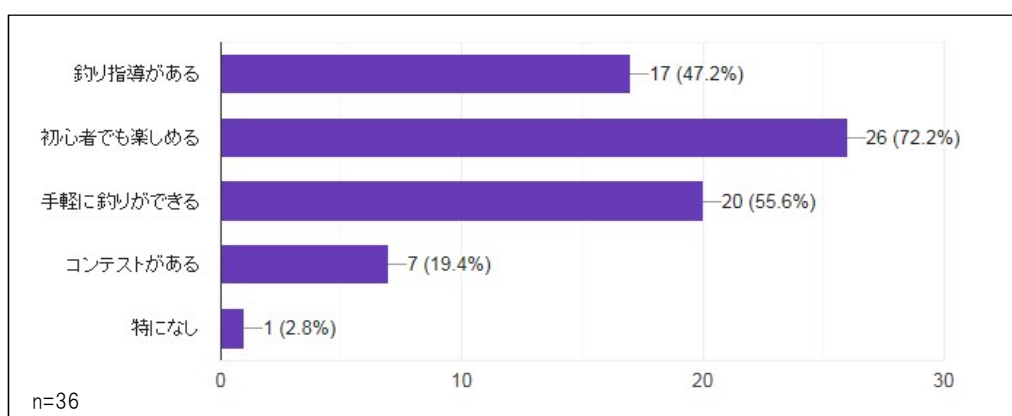
【イベントの満足度】

満足度の指標として、参加者の約 86%が「とても楽しかった」、「楽しかった」と回答。イベントの満足度は高いといえる。



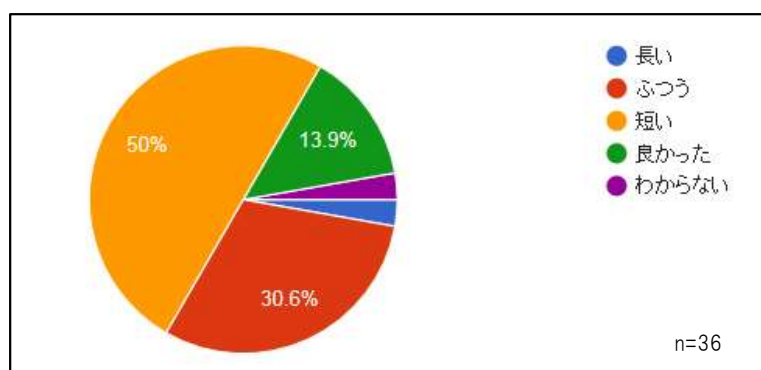
【イベントの魅力】

イベントの魅力では、「初心者でも楽しめる」とした回答が 72.2%と最も高く、次いで「手軽に釣りができる」が 55.6%と、初心者が手軽に参加できることが大きな魅力。



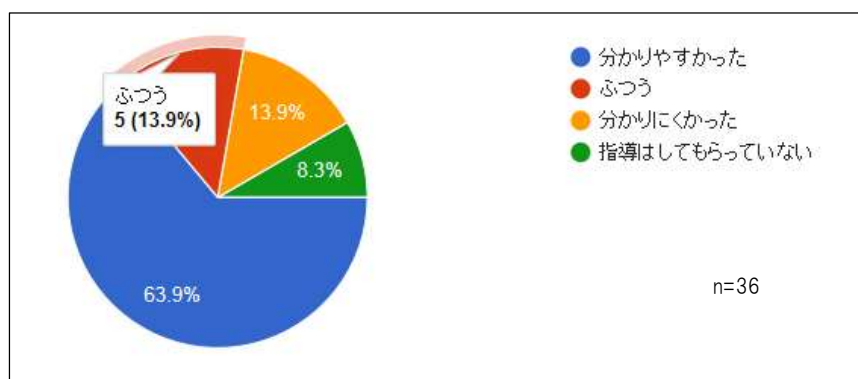
【釣りの時間】

釣りの体験時間は、「短い」とする回答が 50%と半数あった。



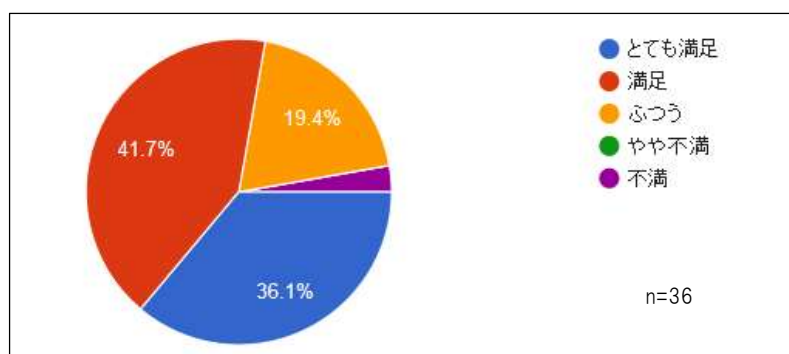
【釣りの指導】

釣りの体験での指導については、「分かりやすかった」が63.9%と過半数を超え、参加者が分かりやすい指導だったとしていることから、運営体制にも満足度が高いことが伺える。



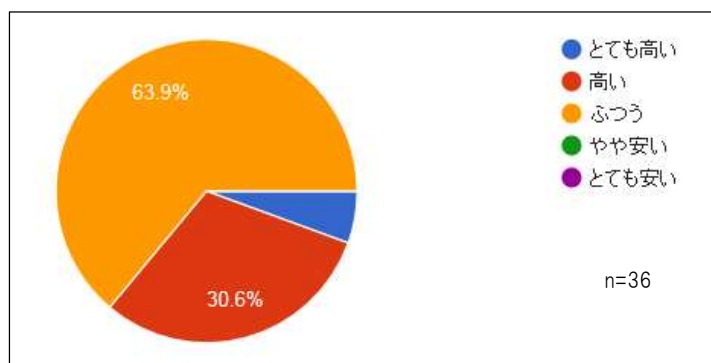
【稚魚の放流などのイベント】

稚魚の放流などのイベントについて、「とても満足」、「満足」で77.8%となり、釣りだけでなく魚を増やす活動にも理解が高いといえる。



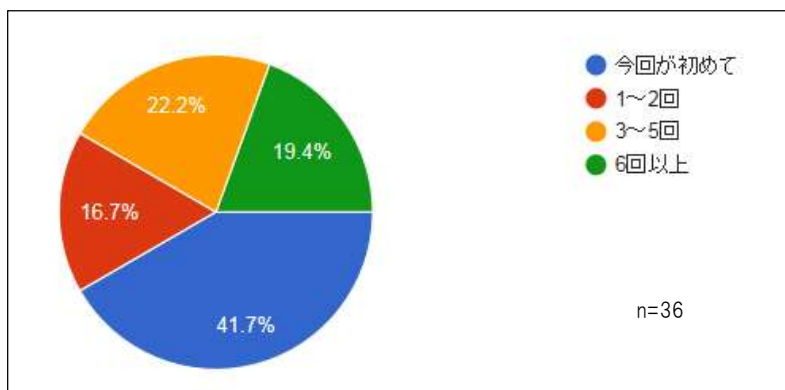
【参加費・レンタル費】

参加費、レンタル費については、「ふつう」とする回答が63.9%と最も多く、現在の参加費が一般的に受け入れられやすい価格であることが伺える。



【子どもの釣り経験】

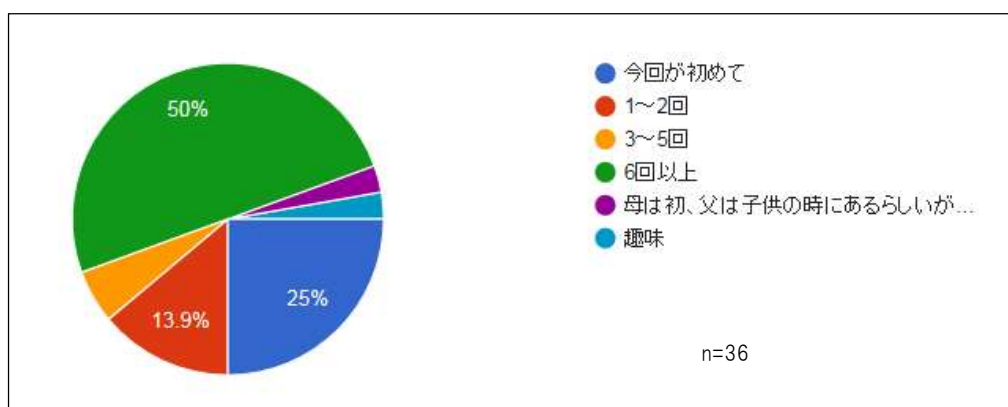
参加者である子どものこれまでの釣りの経験においては、「今回が初めて」とする回答が41.7%と最も多く、「今回が初めて」～「1～2回」の未経験者、経験が少ない参加者が58.4%と過半数を超えている。一方で、「6回以上」の経験者もの参加も19.4%あった。



【親の釣り経験】

参加者の親の釣り経験については、「4回以上」の経験者が50%と最も多く、釣り経験のある親の子どもの参加傾向が高いことが伺える。

一方で、「今回が初めて」の親が25%となり、釣り経験の無い親の子どもの参加もあり親の経験が無いことから、このイベントへの参加につながっている可能性がある。



8 関係者ヒアリング結果

芦屋港における海釣りの釣り場としての可能性や、釣り客の実態の把握や議論にあたって必要な事項に関して、町内釣具店や、釣りイベントを主催する芦屋町商工会青年部、芦屋港内を利用し、釣り場に隣接している遠賀漁業協同組合芦屋支所といった関係者に、事前にヒアリングを実施しました。

また、専門分科会の検討過程において出た課題と改善策をより詳細に把握し、検討に活かすため、遠賀漁業協同組合芦屋支所と釣り場としての利用に関するヒアリングを実施しました。

次ページ以降に、ヒアリング結果を会議資料より掲載しています。

日 時	平成 30 年 7 月 5 日（木）14：00～15：00
対 象	芦屋町商工会青年部
内 容	芦屋港の海釣り機能について

1.芦屋港の釣り場としての可能性	☒ 釣り場としては良くないが、管理はしやすいレベル。 ☒ 釣れる場所では無いが、イベントとしては可能性が高い。 ☒ 魚を捌く等の付加価値を付けるサービスの提供が必要ではないか。
1-1.各地点での魚種、釣り方法等	☒ えさ釣り
1-2.主なターゲットとしての可能性	☒ 親子、ファミリー ☒ 初心者、女性 ☒ プロを対象するには厳しい。
1-3.有 料 施 設 の可能性	☒ 手ぶらで訪れても釣りが体験可能とすれば有料でも可能性はある。 ☒ 安全して釣れる場所の提供
1-4.釣り場の配置	☒ 現在行っている場所は問題ないが、砂が溜まりやすい。
2.現在の問題点及び課題	☒ トイレの充実化 ファミリーフィッシングの際、軽トラに乗せた簡易トイレを使っている。
3.想定できる料金設定	☒ 手軽さが必要。釣り竿レンタル：500 円程度、フルレンタル：3,000 円（ライフジャケット等含む） ☒ 常設釣り場：1,000 円～3,000 円程度
4.想定できる運営方法	☒ 漁船に乗って釣り体験+食べる＝セット販売。 ☒ 釣った魚を直売所で買い取りする制度、捌いた魚をその場で食べさせてくれる。
5.その他	☒ ファミリーフィッシングについて ・地元の観光資源を活用することが目的で立ち上げたイベント ・今年で 5 年目を迎える。リピーター増加 ・親子、初心者が多い。（子供 100 名、※小学生 9 歳～12 歳が多い。親同伴） ・投げ釣りが多い。（キス、ヒイラギが多い） ・遠賀郡（80％）、直方、鞍手からの参加が多い。 ・捌き方教室→釣って捌いて食事提供→今は捌きをみてもらう体験のみ。 ・指導者（ボランティア）25 名程度、町内の方が多い。

日 時	平成 30 年 7 月 5 日（木） 15：00～16：00
対 象	釣具店
内 容	芦屋港の釣り場としての可能性について

1.芦屋港の釣り場としての可能性	☒ 釣りの流行は早い。最近では若い層のルアー釣りに関心が高く、若い層やファミリー層の釣り場としては可能性があるかも知れない。 ☒ 釣り人口の減少もあり釣り場としては厳しい。釣り具大型店の客数も全体的に減少気味。 ☒ 個人商店としては正直見えない部分があるが、釣り人と漁協の共存共栄は必要。
1-1.各地点での魚種、釣り方法等	☒ 時期、季節により違う。 ☒ 投げ釣り、サビキ釣り
1-2.主なターゲットとしての可能性	☒ 親子、ファミリー ☒ 初心者、女性
1-3.有料施設の可能性	☒ レストランや買い物等の複合施設との連携、サービスの充実化 ☒ 釣り＝お金がかかるな遊びとして捉えてもらいたくない＝お金があまりかからず、楽しめる遊びスペース ☒ 手軽に軽く出来る釣り公園 ☒ 施設等の充実により、雇用に繋がる。
1-4.釣り場の配置	
2.現在の問題点及び課題	☒ トイレの充実
3.想定できる料金設定	☒ リール、釣り竿：2,000 円、リール、釣り竿+エサ：2,500 円～3,000 円程度
4.想定できる運営方法	
5.その他	☒ 施設の充実により雇用に繋がってほしい。

日 時	平成 30 年 7 月 17 日（火）10：00～11：00
対 象	釣具店
内 容	芦屋港の海釣り機能について

1.芦屋港の釣り場としての可能性	☒ 釣り経験の無い人が一度来るとリピーターとしての可能性は高い。 ☒ 初心者教室等の充実化が鍵。
1-1.各地点での魚種、釣り方法等	☒ えさ釣り ☒ 魚種が限定（あじ、ヒラメ、スズキ、漁港側（遠賀川沿）ではチヌ、キス）
1-2.主なターゲットとしての可能性	☒ 若い世代（女性：一度体験するとリピーターになる可能性が高い） ☒ 未経験の年配者（現状は、早朝 5：00～8：00 くらいに年配者が多い。）
1-3.有料施設の可能性	☒ えさ釣りの楽しさ→釣るだけではなく食べる楽しさを体験（料理教室等） ☒ 人的交流 ☒ 地元割引（町内割引）の設定 ☒ 地元利用者の促進、増加に繋げる。 ☒ 現状のままでは、高い価格は難しい。 ☒ イカ釣り体験 ☒ 遊漁船の体験プログラム（短時間で体験＝夜釣り体験→宿泊に結びつく。） ☒ 漁獲体験
1-4.釣り場の配置	
2.現在の問題点及び課題	☒ 釣人口の動向：えさ釣り：高齢化→フラットな場所を求める（漁港の橋場） ルアー釣り：若年層の増加→ブラックバスから人気。川～池～海に拡張している。 ☒ 海の町＝海をテーマとしたコーディネートが現状無い。外部に向けて創出するブランディングが必要。 ☒ 魚価が下がっている事により漁業者の安定した価格の確保が必要。 ☒ 遊漁船が他地域と比較して弱い。
3.想定できる料金設定	☒ 芦屋町内のスーパーと連携し、釣った魚を 1 匹 300 円程度で捌く仕組み。 ☒ 持ち込み可能な飲食店があると良い。
4.想定できる運営方法	☒ 運営者：人材が町内で不足している。 ☒ 釣りの教育が出来る方、釣り講習を行う→覚える事で自慢したくなる。 ☒ 稚魚の放流による保護活動も重要。
5.その他	☒ トレイの充実。 ☒ 環境作りが必要、常に人がいる環境。

日 時	平成 30 年 7 月 17 日（火） 11：00～12：00
対 象	遠賀漁業協同組合
内 容	芦屋港の海釣り機能について

1.芦屋港の釣り場としての可能性	☒ 導線、安全面の確保が必要。（テトラの安全対策） ☒ 現状、立入禁止エリアの看板を出しているが意味がなく、勝手に入ってきて釣りをしている。 ☒ 管理はきちんとしてもらった方が良く。立入禁止地区に人が流れてくる。
1-1.各地点での魚種、釣り方法等	☒ 管理対策が必要。
1-2.主なターゲットとしての可能性	☒ 特になし
1-3.有料施設の可能性	☒ 漁業者の中には、海でのレジャーには反対もある。お互いの決め事の明確化は必須。 ☒ 漁協としては指定管理は難しい。収益性が見込めない。ノウハウもなくリスクが高い。 ☒ 地域内で共存していく考え方にシフトしていく事が必要。
1-4.釣り場の配置	☒ PB エリア近くに有料釣り場を作ることに支障はないが、釣り人が漁港エリアに流れてくることが想定される。 ☒ 漁港内の防波堤も、柵等による区分ができれば利用して問題ない。（東波止） ☒ 遠賀川河口（テトラ側）は投げ釣りのポイントとなる。釣り場としては良い場所だが、整備が必要。 ☒ 漁港の動線と釣り客の動線の区分をしっかりと検討する必要がある。
2.現在の問題点及び課題	☒ 組合員の減少と高齢化（24名のうち、平均60代）芦屋漁協は合併しているから今のところは大丈夫であるが10年～20年後を見据えると存続の危機も考える必要がある。組合員の15%は危機感がある。（特に30代）
3.料金設定（想定）	
4.運営方法（想定）	
5.その他	☒ 導線を作る為に漁協事務所の位置を検討する必要もある。 ☒ 漁業者の方の年収も減少している。対策も必要である。（今では年収1,000万円以上稼ぐ人が少なくなった）

日 時	平成 30 年 9 月 2 8 日（金） 1 5 : 3 0 ～ 1 7 : 0 0
対 象	遠賀漁業協同組合
内 容	釣り場の利用について

I. 釣り場（エリア） 利用範囲について	
I-1 場所として 漁業者の理解を得 ることができるか	☑東防波堤を釣り場所にする事は問題なし。導線を明確にし、フェンスなどを設ければ遠賀川河口添いの 2 号物揚場も今は使っていないので、問題はないと思う。
I-2. 利用者の受入 に関して、良好な関 係を築けるか	☑東防波堤を開放し、駐車場も整備すると人が増え、立ち入り禁止の遠賀川河口での釣り人も増える可能性が高い。東堤防を開放するタイミングで漁協敷地内の動線も整備する事が必要。
I-3. 利用者と漁業者 の利用区域の区分・利 用導線の整理	☑1 号野積場を駐車場にした場合、東堤防への導線は問題ないと思われる。上記のとおり遠賀川河口への釣り人も増えるため、1 号野積場から漁協の事務所裏を通らないように、例えばなみかけ大橋から階段を使うなど、2 号物揚場へ移動出来るような導線整備が必要。 ☑船揚場の無断利用が多いため、ここにはフェンスを設置するなどして侵入できないようにして、釣り人の利用区域を明確にして欲しい。
II. 安全対策	
II-1 利用者の安全面 と漁業者が活動する 上で必要となる安全 対策について	☑東堤防にフェンスはあるので、落下した際の対策が出来れば問題ないのではないか。2 号物揚場については、足場などの整備が必要と思われる。2 号物揚場の電柱と照明は、現在漁協は利用しておらず、今後河川事務所に管理をして欲しい。
II-2 駐車場 トイレ、 洗い場、管理棟等 の配置	☑1 号野積場を駐車場にする事は、漁協は使っていない為問題ない。ただし有料にすると漁協の敷地内等に無断駐車をする為、駐車できないように整備するか、駐車場は無料が望ましい。
II-3. 管理上での連 携策	☑緊急時の関わりや体制。 ☑緊急時のかわりなどは特に考えていない。ルールは定める必要がある。

Ⅲ．付加価値（サービス） Ⅲ－１ 運営における関わりの可能性	☑仮に行政から委託を受けて、開放する区域を管理するのではれば可能性としてゼロではない。
Ⅲ－２ 遊漁船の体験メニューの商品化、魚さばき体験などの連携や受入は可能か	☑遊漁船は既に仕事として行っている人もいる、体験メニューなどは船頭により対応出来るか分かれるのではないか。釣り体験は漁師の釣り方は一般の釣り人と異なるので難しい。その他体験などは、本業（漁）が忙しく仕事で手いっぱいの状況であり、現状は難しい。数年先は分からないが、現状は難しいのではないか。

9 近隣海釣施設の概要

日明・海峡釣り公園

利用開始日	平成10年4月
総延長	300m
概要	港湾施設の一部を釣り施設として、開放することを目的として、平成10年4月に利用開始。利用料金は無料で、トイレや休憩所、身障者の釣りスペースを備えている。また、安全対策も整備されており、ファミリーを始め、安心して釣りを楽しむことができる施設。
付帯施設	■管理棟(1階：売店、トイレ 2階：釣りやマナーの講習室) ■身障者の釣りスペース有 ■手洗い場：有り ■転倒防止柵：有り ■浮輪：有り ■梯子：有り ■管理人：常駐
営業時間	■4月～10月 6:00～19:00 ■11月～3月 7:00～17:00
定休日	■毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は営業） ■年末年始（12月29日から1月3日）
利用料金	■無料
レンタル料金	■レンタル無し（売店にて販売有り）
駐車場	■無料 約78台 仮設駐車場約20台
釣果	■チヌ・メイタ・クロ スズキ・セイゴ・カレイ・キス・アジゴ・ヒラメ・アイナメ・タナゴ・サンバスウ・メバル等
管理方法	■施設管理者：北九州市 ■施設運営管理：委託 売店：委託
利用者数	■利用者数不明（利用者カウント無し）

※北九州市ヒアリング及び北九州市HPより一部引用



福間漁港海浜公園

利用開始日	平成10年4月
総延長	280m
概要	漁業活動の基地である漁港を広く住民に開放し、釣って、遊んで、海との関わりあいを楽しんでもらう施設として平成10年4月に利用開始。 90隻のプレジャーボートを収容できる浮き桟橋、水際まで下りることができる南護岸遊歩道、釣りが楽しめる南防波堤、多目的広場等を、福間漁港海浜公園として総合的に整備。南防防波堤には、安全対策が整備されており、ファミリーや初心者向け施設。
付帯施設	■管理棟：無し ■トイレ：有り ■手洗い場：有り ■転倒防止柵：有り ■浮輪：有り ■梯子：有り ■管理人：常駐無し
営業時間	■24時間
定休日	■年中無休
利用料金	■無料
レンタル料金	■レンタル無し
駐車場	■無料
釣果	■メバル・メイタ（クロダイ）・キス・メゴチ・メイタ・バリ・アジゴ・ハゼ・コッパグロ（メジナ）・コノシロ・カマス・ヒラメカレイ・アイナメ
管理方法	■施設管理者：福津市 ■施設運営管理：委託（宗像漁業協同組合 津屋崎支所）
利用者数	■利用者数不明（利用者カウント無し）

※福津市ヒアリング及び福津市ＨＰより一部引用



福岡市海釣り公園

利用開始日	昭和60年4月
総延長	386mの丁字（第1釣台120m、第2釣台180m）
概要	漁業者の収入増と釣り愛好者と漁業者との共存調和を図ることを目的として、昭和60年4月に利用開始。玄海国定公園域にあり、自然公園法における自然環境保全の基本理念にのっとり、自然との調和ある必要限度の施設として整備。また、釣果の期待効果が低い海域であることから、海洋釣堀や、飲食、体験イベント等の付加価値サービスの充実を図り、ファミリー層や女性層の集客に力を入れている。
付帯施設	■管理棟：有り 職員が常駐 (1階) 身体障害者用トイレ 指導員室 (2階) 男子トイレ (3階) 女子トイレ 軽食自販機 魚拓展示コーナー 展望所 休憩所 授乳室 コインロッカーキッズコーナー（絵本・DVD） ベビーベッド ■トイレ：有り ■手洗い場：有り ■転倒防止柵：有り ■浮輪：有り ■梯子：有り ■管理人：常駐 ■海洋釣り堀（1カ所）
営業時間	■4月～10月6:00～18:00 ■11月7:00～18:00 ■12月～2月7:00～17:00 ■3月7:00～18:00 ■海洋釣り堀9:30～16:30
定休日	■年中無休
利用料金	■大人1,000円/4時間以内（回数券あり） ■小人500円/4時間以内（回数券あり） ■超過料金（1時間まで毎に）大人250円、小人100円 ■入園料（見学のみの）大人200円、小人100円 ■海洋釣り堀 真鯛180円/g、下処理200円、三枚おろし300円
レンタル料金	■竿・リールのセット400円
駐車場	■普通車・準中型車1台1回300円 ■中型車1台1回600円 ■大型車1台1回1,200円 ■二輪車1台1回100円
釣果	■チヌ（メイタ）・アジ・スズキ・タナゴ・アイナメ・インダイ・クロ・バリ・ヒラメ・カレイ・カマス・カワハギ・サヨリ・メバル・ボラ・カサゴ
管理方法	■施設管理者：福岡市 ■施設運営管理者：指定管理者（福岡市漁業協同組合）
利用者数	■平成29年度約66,300人 平成28年度61,931人 平成27年度70,675人

※福岡市ヒアリング及び福岡市海釣り公園HPより一部引用



脇田海釣り桟橋

利用開始日	平成13年9月1日
総延長	500m（釣台300m）
概要	漁業者と釣り人がお互いにルールやマナーを守りながら、安全で快適な釣りや漁業活動を行い、地域の活性化に寄与することを目的として設置。 遊歩道の両側に500m釣り台があり、管理棟、休憩棟が設置されている。また、安全対策も成されており、ファミリー向けの施設。
付帯施設	■管理棟（入口部分） 利用料金の授受、施設情報の提供 ■休憩棟 1 F 部分：トイレ・自動販売機・売店・竿無料修理コーナー 2 F 部分：休憩所、展望室 ■手洗い場：有り ■転倒防止柵：有り ■浮輪：有り ■梯子：有り ■管理人：常駐
営業時間	■4月～10月 ：6：00～19：00 ■11月 ：6：00～18：00 ■12月～2月 ：7：00～17：00 ■3月 ：6：00～17：00
定休日	■毎週火曜日（火曜日が祝日の場合は営業） ■年末年始（12月29日から1月3日）
利用料金	■大人：1日1,000円（団体割引、回数券、年長者割引あり） ■小人：1日500円 ＊安全管理上、小学生のみでの入場は禁止 ■遊歩道利用：無料
レンタル料金	■竿、エサ、仕掛け、バケツ付 800円
駐車場	■民営 1日300円 約150台 ＊12月1日～3月31日は無料
釣果	■アジ・カレイ・チヌ・メイト・キス・コダイ・サヨリ・ヒラメ・フグ・ベラ・ボラ・アイナメ カサゴ・メバル・カワハギ 等
管理方法	■施設管理者：北九州市 ■施設運営管理者：指定管理者（ひびき灘漁業協同組合）
利用者数	■平成29年度年間約23,000人

※北九州市ヒアリング及び北九州市HPより一部引用

10 概算事業費積算資料

概算工事費（安全設備）						
盤 名 称	仕様	単位	数量	単価(千円)	金額(千円)	備 考
救命浮環	外径560 ロープ付	基	6	10	60	
救命フック		基	6	20	120	
アンカーボルト		式	6	16	96	
支柱本体	H1469×W460	基	6	184	1,104	
ステンレス製はしご		m	24	120	2,880	
看板設置		式	1	60	60	
フェンス		式	2	300	600	
				機器費、材料費計	4,920	
据付工事費	機器費＋材料費の20%	式	1		984	
一般管理費等	機器費＋据付工事費の15%	式	1		886	
消費税（10%）					679	
工事費①					7,469	

概算工事費（駐車場・トイレ等）						
盤 名 称	仕様	単位	数量	単価(千円)	金額(千円)	備 考
トイレ（男女＋多目的）	2850×7900mm	式	1	18,000	18,000	既製品 設置費込
手洗い場	立水栓・自動開閉式	台	1	300	300	設置費込
フェンス	h 1.8m	m	410	19.0	7,790	
アスファルト舗装		m ²	5,300	5	26,500	
				直接工事費	52,590	
間接経費	直接工事費の64%	式	1		33,658	別紙参照。国交 省基準に基づく
消費税（10%）					8,625	
工事費②					94,872	

概算工事費（防犯カメラ）						
盤 名 称	仕様	単位	数量	単価(千円)	金額(千円)	備 考
防犯カメラ・録画機	ΛHD	式	2	200	400	
カメラ設置支柱		本	2	60	120	
ケーブル		m	150	0.573	86	複合単価
電線管		m	150	1.7	255	複合単価
				機器費、材料費計	861	
据付工事費	機器費＋材料費の20%	式	1		172	
一般管理費等	機器費＋据付工事費の15%	式	1		155	
消費税（10%）					119	
概算工事費③					1,307	
概算工事費（放送設備）						
盤 名 称	仕様	単位	数量	単価(千円)	金額(千円)	備 考
非常用放送設備	屋内壁掛形	面	1	950	950	
スピーカー		台	1	20	20	
マイク		台	1	10	10	
ケーブル	CVV-S1.25sq-2c	m	160	0.4	64	複合単価
電線管	G16	m	160	2	272	複合単価
				機器費、材料費計	1,316	
据付工事費	機器費＋材料費の20%	式	1		263	
一般管理費等	機器費＋据付工事費の15%	式	1		237	
消費税（10%）					182	
工事費④					1,998	
合計工事費（①＋②＋③＋④）					105,646	

概算設計費						
盤 名 称	仕様	単位	数量	単価(千円)	金額(千円)	備 考
基本設計		式	1	2,000	2,000	
実施設計		式	1	6,000	6,000	
消費税（10%）					800	
設計費計					8,800	

1 1 ランニングコスト

芦屋港における海釣りの釣り場として、施設管理に伴うランニングコストについて、ステップ1で整備する全ての施設・設備が整った場合にかかる、トイレ・手洗い場・外灯の光熱水費、トイレの清掃費用を算出しました。

算出の根拠としては、光熱水費は類似施設を参考とし、清掃費用については町内公衆トイレの委託料をもとに試算しました。

項目	管理形態	水道光熱費等	清掃管理費																				
トイレ 手洗い場	委託管理	上水道：年間使用料1,115㎡、年間料金280,304円 下水道：年間料金293,202円 電気：年間使用料2,543kWh、年間料金120,814円	1回当たり2,500円 週2回年104回 年間料金260,000円																				
		＊水道光熱費については、類似施設として海浜公園の第3トイレにかかる費用を参考に試算 ＊清掃管理費用については町内業者費用を参考に試算																					
街灯		電気料（想定） 400w水銀灯 4台 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>1日当たり</th><th>1ヶ月当たり</th><th>年間</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>使用量</td><td>19.2kWh</td><td>576kWh</td><td>6,912kWh</td></tr> <tr> <td>電気料金</td><td>単価16.5円×19.2Kwh = 316.8円</td><td>316.8円×30日 = 9,504円</td><td>9,504円×12ヶ月 = 114,048円</td></tr> <tr> <td>基本料金</td><td></td><td>264.6円</td><td>264.6円×12ヶ月 = 3,175円</td></tr> <tr> <td>合計</td><td></td><td>9,768.6円</td><td>117,223円</td></tr> </tbody> </table>			1日当たり	1ヶ月当たり	年間	使用量	19.2kWh	576kWh	6,912kWh	電気料金	単価16.5円×19.2Kwh = 316.8円	316.8円×30日 = 9,504円	9,504円×12ヶ月 = 114,048円	基本料金		264.6円	264.6円×12ヶ月 = 3,175円	合計		9,768.6円	117,223円
	1日当たり	1ヶ月当たり	年間																				
使用量	19.2kWh	576kWh	6,912kWh																				
電気料金	単価16.5円×19.2Kwh = 316.8円	316.8円×30日 = 9,504円	9,504円×12ヶ月 = 114,048円																				
基本料金		264.6円	264.6円×12ヶ月 = 3,175円																				
合計		9,768.6円	117,223円																				
		＊街灯電気使用量については、1日あたり12時間使用を参考に試算 ＊電気料金単価、基本料金は（公衆街路灯B）九州電力基本料を参考に試算																					

※上記費用は、参考費用

1 2 経済効果

■利用者数の試算

◎休日に芦屋港を利用するファミリー層（25～44 歳）

- ・ 芦屋港を中心にした半径 60 分圏内に居住するファミリー層：364,198 人
- ・ 商圏人口のうち、芦屋港を訪れる方の割合：7%

$$364,198 \text{ 人} \times 7\% = \underline{25,494 \text{ 人}}$$

◎観光・レジャーにおける「釣り」の動向

- ・ 芦屋港を利用するファミリー層：25,494 人/年間
- ・ レジャー白書 2017、「釣り」の動向より参加希望率 9.6%、年間活動回数 1.5 回で試算

$$25,494 \text{ 人} \times 9.6\% \times 1.5 \text{ 回/年間} = 2,639 \text{ 人} \approx \underline{2,600 \text{ 人}}$$

延べ利用者数（試算）

約2,600人/年間

■地域経済効果の試算

◎地域での消費

- ・ 地元釣具店ヒアリングによると釣具・エサの購入費は 1,200 円程度（氷代等含む）
- ・ 年間延べ利用者数に、一人当たり 1,200 円の消費として試算

$$2,600 \text{ 人} \times 1,200 \text{ 円} = \underline{3,120,000 \text{ 円}}$$

地域経済効果（試算）

釣具・餌・氷等の購入費

3,120,000円/年間

* 飲食・物販施設、町内での飲食、宿泊費等は除く「釣り」での直接消費として試算

1 3 公益社団法人日本釣振興会について

○日釣振とは

（公財）日本釣振興会（略称：日釣振-にっちょうしん）は、一般の釣り人や、釣具店・メーカー及び釣り関係団体等が会員になり、会員の会費や寄附で運営され、“釣りの健全な振興を図る”ための事業活動を行なっています。

主な事業活動としては、「放流事業」、「水辺環境美化保全事業」、「釣教育・釣振興事業」、「釣りマナーと安全対策の啓発事業」等です。

○設立の目的

釣り文化の普及を通して、魚族資源の保護・増殖・水辺環境の美化・保全釣り場拡充の推進活動等を行うことにより、青少年の健全な成長、社会の発展に寄与することを目的とする。

日本釣振興会ホームページより

🎣 魚を増やす活動	🎣 釣り教室・大会
私たちは1980年から累計で10億円近い稚魚を毎年海面、内水面に放流をしてきました。これからも全国各地の栽培漁業センターとの連携を深め、より体系的、効率的、そしてまた生態系にも配慮をした放流を行っていきます。	当会では、全国にある支部において、初心者・ジュニア・シニア世代を対象にした釣り教室・大会を実施し、釣りの普及活動に力を注いでいます。釣りをしてみたいけれど、やり方がわからない、何をそろえたらいいのかわからない、そんな方々から、ベテラン釣り師の方にも気軽に参加して頂けるイベントが盛りだくさんです。
魚道・産卵床	釣り体験教室
放流実施予定一覧・報告	日本つり週間(JFW)

魚を増やす活動

稚魚や発眼卵の放流

(つり環境ビジョンの資金を使用した放流も含む)

水質悪化、乱獲、カワウによる食害、自然環境の変化等で年々魚の数は減っており、少しでも魚が増えるように毎年内水面、海水面で放流を行っています。平成29年度は海水面にカサゴ、クロダイ、ヒラメ、マコガレイ、メバル、キジハタ等約29万尾、内水面ではヘラブナ約3,500kg、ニジマスとヤマメ約4万尾、ワカサギやヤマメの発眼粒約3,800万粒を放流いたしました。

また平成29年度は平成28年度に続き「つり環境ビジョン」の資金を使用した放流にも協力し、カサゴ、マコガレイ、メバル、マダイ、ニジマス等約13万尾、ヘラブナ約3,500kg、ギンブナ150kg、ニジマス120kg、ヤマメ発眼粒約9万粒、アマゴ600尾等の放流を行いました。



釣りの普及活動

日本つり週間

Japan Fishing Week(JFW)

日本つり週間は7月の「海の日」を中心とした日程で、子供達にできるだけ釣りや、魚とのふれあいを体験してもらうための企画です。平成29年には全国11カ所で実施され、2,150名の参加者がありました。



釣り体験教室・釣り大会の開催

日釣振では釣りをしたことがない人にできるだけ釣りを体験してもらえよう、初心者対象の釣り教室を多く計画しております。平成29年には全国90カ所で開催し、約9,000名に釣りの楽しさを体験してもらいました。



📌 水辺の環境活動

「いつまでも釣りを楽しめる豊かな水辺環境を次世代へ」との理念のもと、釣り場の清掃活動とともに、ボランティアダイバーによる湖底や海底の清掃活動も行っています。

水辺感謝の日

その他の清掃活動報告（湖底清掃、活動映像・その他）

水中清掃

📌 つり環境ビジョン

（つり環境ビジョンコンセプトに基づくLOVE BLUE 事業）

放流

水中清掃

マナー啓発看板設置

魚道・産卵床

📌 釣り場を増やす活動

青少年たちが友達同士で行っても、安全で楽しめる釣り場を提供することが大人たちの責任ではないでしょうか。
日釣振は安全で手近な釣り施設の設置の推進に力を入れていきます。

釣り場の確保（防波堤開放等）

📌 募金

アングラーズバンド募金

寄付金・募金の御礼とご報告

📌 釣り文化資料室

釣り文化資料室では2万冊の関連図書と釣り用品の展示をしております。日本の釣り文化の歴史をたどり、受け継がれた技と伝統を間近で感じることができます。

釣り文化資料室

📌 その他の活動

1 4 検討の経緯

●専門分科会

第1回専門分科会（8月29日）

- ・ これまでの経緯、デスクリサーチ結果について報告
- ・ 事業者ヒアリング結果報告
- ・ 海釣機能の方向性について検討

第2回専門分科会（9月11日）

- ・ 現地調査
- ・ 現状での活用方法について検討
- ・ 遠賀漁業協同組合との連携、関わりについて検討

第3回専門分科会（9月18日）

- ・ 遠賀漁協ヒアリング結果報告
- ・ 利用範囲、安全対策、利用料金等検討
- ・ 付加価値、運営管理について検討

第4回専門分科会（10月10日）

- ・ 東防波堤の活用について検討
- ・ 遠賀川沿いの整備について検討
- ・ 海釣機能導入目的、期待できる効果について検討
- ・ ソフト費用について検討

●ヒアリング、調査経過

- | | |
|--------------|--------|
| ・ 事業者ヒアリング | 7月5日 |
| ・ 事業者ヒアリング | 7月17日 |
| ・ 事務局打合せ | 7月17日 |
| ・ 関係者打合せ会議 | 8月22日 |
| ・ 漁協ヒアリング | 8月22日 |
| ・ 漁協ヒアリング | 9月28日 |
| ・ 各分科会等関係者協議 | 10月9日 |
| ・ 現地調査 | 10月10日 |

15 分科会委員名簿

●委員 6名

会長

- ・吉田 博司 公益財団法人日本釣振興会 理事
九州地区支部長 福岡県支部長
- ・西森 誠 釣具メーカー
- ・皆川 公一 地元釣具店
- ・鶴原 修 町内釣愛好家
- ・郷原 未来 町内釣愛好家
- ・河村 拓磨 遠賀漁業協同組合

●事務局

- ・芦屋町 芦屋港活性化推進室
- ・芦屋町 産業観光課
- ・コンサルタント（株）JTB、（株）グローカルプロジェクト）

●オブザーバー

- ・福岡県県土整備事務所 河川砂防課 砂防港湾係